

第一次地域福祉活動計画

計画期間:平成26年4月1日から平成31年3月31日まで(5カ年計画)

平成26年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfa

第一次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 平成26年度実行計画進行管理

1. 基本方針

平成26年度のYOU・Iプラン（平成26年度～平成30年度）は、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してらせる福祉のまちづくり」を基本理念とした最初の年度となることから、事業の評価検証を行いながら、現行の事業精査の遂行を基軸に据え、住民主体の地域福祉の一層の向上を目指し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 主たる行動計画

●福祉教育プログラムの開発、検討

子どもの頃からの福祉意識を高めることを目的に、学校での福祉教育プログラム推進支援の展開、学校と地域のための福祉教育プログラムの開発、検討をする。市内中学校・高等学校でモデル事業を展開し、児童生徒、学校教職員、地域やプログラム提供者が無理なく継続できるプログラムの開発を目指しました。

また、各種養成講座等のプログラムを提供し、地域の潜在する人財の確保に努めてまいりました。

●総合的な相談支援体制の強化とネットワークによる取り組み

特定相談支援事業を拠点とした総合的・横断的な相談支援体制をさらに強化し、多様な社会資源との連携を図り、障がい者施設等を拠点として解決に努め、さらに、施設等の機能を有効に活用して地域との連携にも努めてまいりました。

また、心身に不安のあるひとり暮らし高齢者を定期的に訪問することにより、安心感を持った生活ができるよう継続的に支援してまいりました。

●座談会の開催に取り組む

自分が暮らす地域にどのような福祉課題が顕在化・潜在化しているのか、その課題解決を図るために、住民として、団体として、機関として、どのような関わりができるのか。それぞれの立場で考える機会を設け、その課題の解決に向けて「自分たちでできること」を考え、主体性のある福祉のまちづくりに取り組むことを目的とする住民座談会を開催し、様々な世代の方々に参加いただくことにより、多くの意見をいただき、関係機関との連携も構築しながら地域の助け合いの機能を有効に機能するための取組みを図りました。

●子育て支援

支援を必要としている心身障害児（発達障害を含む）及び保護者に対し、療育指導や各種相談を行い、育児不安の解消と親の社会参加を促し、障害児の保育を中心とする集団支援及び個別支援を通して、児童の健全な発達を支援してまいりました。

「とりで^友YOU・^愛Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりで^友YOU・^愛Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

(1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

(1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・進行管理結果をまとめ、取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

(1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年度の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

(1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

(2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	福祉教育プログラム作成	担当係	地域支援係
		担当者	職名 係長
事業開始年度		氏名	小林一郎
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう知らせようー情報の共有促進
	行動計画	2(1)	福祉教育プログラムを作ります
現状と課題	小中学校等福祉体験を実施しているが、実際に社協ではどのようなものができるかを広く学校に知らせる情報提供が出来ていない。		
目的 (何のために)	社協での福祉体験は一部の教員が把握し実施している状況にあるが、福祉教育プログラムを作ることで福祉体験等依頼しやすくする。		
対象 (誰・何を対象に)	小中学校児童		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	現在社会福祉協議会で行っている福祉体験のボランティアのメニューを内容、必要時間等明確にし、各学校に配布。今まで社協の活動を知っている限られた教員だけでなく、広く内容を理解していただき活用してもらおう。各学校ごとに適切に行うことのできる福祉教育プログラムを作成する。		
平成26年度 の実施状況	5月校長会において社協で実施している福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。社協での取り組みについてを説明。また、若年層ボランティアの育成の為、ボランティア活動推進校の指定についての説明も合わせて行い、福祉体験から得た知識や福祉に関心を持った生徒たちを活動につなげるためボランティア活動のための費用として助成する。校長会の協力もあり平成26年度より3年間、市内小学校6校中学校2校に各50,000円を助成することが決定。福祉と教育を結びつけ、先生の福祉に関する理解を得て若年層ボランティア育成を図る。		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	4	福祉体験冊子「やさしい心の種をまく」により各学校での福祉体験が増加。福祉体験について書く絶好の先生方に福祉体験の内容等認知度が上がったと予想される。	
	課題				
	福祉体験の回数が増えていくとボランティアの派遣が重なるとボランティアが派遣困難な状況になる。特に車イス、アイマスク白杖、シニア体験についてのボランティアが足りなくなる。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	年1回開催する福祉体験ボランティア養成講座の広報の充実。ボランティア団体への呼びかけを常に行う。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	福祉体験ボランティアの車イス、車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアについてはシルバーリハビリ体操指導士の会から多く参加しているため今後も呼びかけをするとともに個人ボランティアに参加を促す。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年4月～28年3月	校長会での福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。福祉体験ボランティアについての説明。市内小学校6校中学校2校に各50,000円を助成の助成により、児童生徒のボランティアへの関心を育む。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
学校ボランティアの要請が夏休み前に集中して人的手配が不十分なときもあった。学校の需要に対応するためにも、学校ボランティアに長く続けてもらう環境づくりが必要。また、長年使っている福祉体験の道具が傷んできているので予算をつけて備品の管理をしていくようにしてほしい。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	趣味サークルにおける社会参加	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度			氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	行動計画	2(2)	趣味サークルを有効に活用します	
現状と課題	全国的にボランティアの担い手不足の現状がつづいている。様々な取組がなされているが効果的な手法が確立されていない。角度を変えたアプローチが必要。			
目的 (何のために)	ボランティアの担い手不足がボランティアという枠組みにとらわれず共通の趣味から仲間づくりをその延長線上にボランティア活動に促す。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	団塊の世代に流行ったフォークソング、多くの方がギター弾ける世代に活躍の場を作る。ギター持込ができるフォークソングの講習会を開き、団体を立ち上げる。月1回程度の活動ができるよう協力。サークル活動を通して実際に自分たちで演奏できるレベルになるよう勉強会を開く。平成27年度内にボランティア派遣ができるよう目指す。			
平成26年度 の実施状況	3月9日、23日、30日の3日間で「フォークソングのつどい」を開催。参加者にサークルとして活動してもらえるよう促す予定。			

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	4月～3月	2	フォークソングという共通の趣味を通して集まる会であるため、継続した活動を行いやすい。すぐに訪問活動つなげるには個人の力量が伴うため未知数だが、サークルとして活動を続け、研鑽を積むことで演奏活動につなぐことができる。
	課題			
	趣味の講座として参加を募るイベントの為に参加者にボランティア意識を高めるための工夫が必要。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	いこいの場出演等実際に演奏活動を体験してもら。また、同じ趣味を持つ仲間づくりでもあるため、月1回は定例に集まり、継続して集まりやすいよう場所の提供等、社協でも協力する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	演奏活動ができるレベルに達した時に施設等訪問活動先へのサークルを紹介し、活動の場を提供する。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月～28年3月	月1回の勉強会を開催し、平成27年度中に高齢者施設等での演奏活動ができるように社協も協力。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	小地域助け合い活動		担当係	地域支援係
			担当者	職名 係長
事業開始年度			氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	2	子育て支援の促進	
	行動計画	2(3)	親子交流のばの	
現状と課題	小地域の中で様々な団体が活動し、それぞれの活動で成果を上げているが、地域全体でのネットワークや協働がない。			
目的 (何のために)	小地域の中で、自治会やボランティア、民生委員、行政、企業、施設等、情報を共有し、ネットワークをつくり、共に協力し合い、地域には何が必要か、何ができるかを話し合い、より良い地域づくりを目指す。			
対象 (誰・何を対象に)	自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者がそれぞれの立場で、団体の状況、今後の課題を話し合う座談会を開催。定期的で開催し、意見を出し合いそれぞれの団体のサービス向上や協力体制ができ、より良い地域づくりをともに考え実行する助け合い活動に発展させる。			
平成26年度 の実施状況	井野団地地区「地域助けあい座談会」2回、戸頭団地地区「地域助けあい座談会」1回開催。自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体が地域の中でそれぞれどのような活動を行っているかを共有でき様々な観点から意見が出され今後どのようにかわりを持ちどのような協働、ネットワークができるか模索中の状態。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	4	地域の問題点をそこで生活する地域を一番よく知っている方々が話し合い協働することは一番望ましく、活動についても持続しやすいと考えられる。今後の話し合いの中でどのような活動、またネットワークの構築ができるかを自ら生み出すことが期待される。
	課題			
	問題によっては自治会やボランティアで解決できない者もあるため行政のサービスについても合わせて考えながら、支援体制サービスを考えていく必要がある。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	角となる人または団体を選定し、ベースとなる活動から行政サービスを考えながらネットワークの構築に導く。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	座談会の話し合いの中でどのようなサービスが必要かにより行く場所を選定し他市町村の成功事例を勉強の為視察する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 28年3月	平成27年度中に座談会から体制を整えネットワーク化を図り月1回の定例会を開催しより良いサービス等考える団体にする。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	災害ボランティア育成	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度			氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	2(3)	緊急支援できるボランティアを組織化します	
現状と課題	いつ起こるかわからない災害時の対策について地域との連携、組織化がされてなく緊急時の対応に難しい状況にある。			
目的 (何のために)	災害時ボランティアセンターを立ち上げた時に協力をしてもらうボランティアを平時より育成し有事の際に迅速に対応できる組織づくりをする。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	災害の知識と災害支援について学習する防災ボランティア養成研修会を開催。研修終了後ボランティア登録をしていただき災害に関する講演会等イベントに参加してもらう。各地区の防災会等関係機関との連携、避難訓練等参加など情報提供啓発活動にも積極的に参加してもらう。様々な団体との協働、災害について知識をより深く探求し、有事の際に即戦力として活動できるような人材育成を目指す。			
平成26年度 の実施状況	9月7日14日茨城県社会福祉協議会と共催で防災ボランティア養成講座を開催。防災に関する基礎知識や避難所の実態に沿った避難所運営ゲームHUG、救急法基礎講習の内容を受講。27名の参加中20名が防災ボランティアとして登録した。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	4	防災ボランティア養成講座では自主防災会からの参加があり、質問等活発な意見交換する場面も見られた。今後も定期的にフォローアップの講座等で有事の際に機能するような体制作りが必要となる。
	課題			
	災害はいつ起こるかわからないが、頻度的には少なく有事の際にどれだけ対応できるか未知数なため、興味関心を持続するのが難しい。特に自主防災会に所属していない方についてのフォローが必要になる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	社協主催の講演会や障害者支援ネットワークと共催で行う避難訓練等の参加や、防災に関するフォローアップ研修の開催により防災に関する意識の持続を図る。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	自治会、自主防災会との連携、防災訓練の参加につなげるなど社協として協働できるよう関係づくりをする。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 28年3月	防災ボランティア養成講座、フォローアップ研修の開催し会員を増やすとともに強化に努める。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度		
実施項目名	子育てネットワーク推進		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度				氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子育て支援の促進		
	行動計画	2(1)	親子交流のばの		
現状と課題	子育て支援センターなど子育て世代が集う場所はあるが、小地域で地域ぐるみの交流場所がない。また同世代のみの交流になり、地域活動への参加にはつながらない。				
目的 (何のために)	小地域の中で子育て世代と地域社会のつながりをつくる。子育て世代のみならず地域住民が参加しやすい場を設け交流することによって地域でともに支える環境づくりする。				
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	自治会等地域での活動を視察し、協力を呼びかける。並行して子供向けレクリエーション講座を開催し、興味関心のある子育て世代、ボランティアとなりうるシニア世代の集う場を作る。講座終了後交流会を行い地域の方々で年数回のイベント企画をしてもらう。イベントでの実績を作り、回数を徐々に増やしていき、サロン立上げを目指す。				
平成26年度 の実施状況	藤代地域子育て支援センターの月1回行う企画の中でブレインジム（脳を活性化させる体操）の体験講座を開催。ブレインジムはお子さんの脳の活性化につながるため定期的で開催し、最終的には保護者自身が地域子育て支援センター以外の場所でサロンを行えるよう社協でも協力する。				

進行管理	成果状況			成果状況に対する説明	
		4月～3月	2	藤代地域子育て支援センターでのみ開催したが、他に3ヶ所の子育て支援センターがあり、興味を持つ保護者がより多く集まることが予想されるため開催できるようにしたい。	
	課題				
	現在ブレインジム指導員は、自治会等認知症予防の高齢者向けに多く派遣しているため指導員の確保が必要。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	ブレインジムの基本動作は簡単なため保護者自身が覚え、自宅でもお子さんに毎日行ってもらい、同時に地域子育て支援センターでも指導員ではなく保護者自身でできるようにする。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	地域子育て支援センター担当者にもブレインジムについてある程度の知識を持ってもらい指導補助等協力してもらおう。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年4月～28年3月	藤代の他、白山、戸頭、東部3ヶ所の地域子育て支援センターでのブレインジム開催。定期的開催により保護者への興味関心を高めボランティアにつなげる。最終的には子育てサロン開催を目指す。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	移動運転者講習会	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	広瀬嘉子
根拠法令等	【国土交通省認定研修（認定番号：国自旅第197号）】			
プランにおける該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	行動計画	②. (2)	専門的なボランティア活動を促進していきます。	
現状と課題	市内3団体で行っている移動サービス事業では、現在運転者の高齢化が進んでおり退会する方が増加傾向にありますが、新規加入する運転者が不足しています。			
目的 (何のために)	市内3団体の運転ボランティアの増員も含め、茨城県南地域の運転ボランティアを増員する目的で取手市外の方の参加も可能にし、10月と2月の2回の講習会を開催する。			
対象 (誰・何を対象に)	68歳未満の茨城県南地域在住・在勤者（普通運転免許保持者）			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	2日間の開催。1日目は、移動サービス概論や運転に必要な知識と心構え、リスクへの対応、セダン利用者理解等の講義を行う。2日目は、基礎的な接遇技術及び介助技術及び実技演習、福祉自動車の特性（演習を含む）、路上運転実技、セダン利用者介助実技等を行う。			
平成26年度 の実施状況	本年度1回目は平成26年10月18日（土）19日（日）の2日間実施し、参加者は12名。2回目は、平成27年2月28日（土）、3月7日（土）に実施予定。2月1日号広報とりでや 2月号、キューピットに開催要項を掲載予定。			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	3	1回目の開催は、昨年度より参加者が減少してしまいました。周知方法をもう少し考慮すべきではなかったか。2回目は、広報とりでに活動中の写真や運転ボランティアの声などを掲載し参加者増を目指す。	
	課題				
	2年連続で開催したが、受講者が減少している。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	次年度よりは、隔年開催の方が良いのではないかとと思われる。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	社協を中心に、他の2団体及び高齢福祉課の協力を得ながら、運転ボランティアの増員を図りたい。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		28年4月～28年9月	第1回目を開催		
	28年10月～29年3月	第2回目を開催			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・移動サービス運転者講習会は、毎年開催してほしい。 ・移動サービス事業を広く市民の方々に理解してもらえるよう、取手市にも協力を求め広報してほしい。 					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	ボランティアの新規登録増化	担当係	地域支援係
		担当者	職名 主幹 氏名 廣瀬嘉子
事業開始年度			
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう
	行動計画	2(2)	趣味サークルを有効に活用します。
現状と課題	継続しているボランティアの高齢化が今後の問題になる。例年、各種講座を開催しているが、ボランティア活動に繋がる人材は約2%あまり、新規ボランティアの開拓が必要。		
目的 (何のために)	誰もが安心して暮らせる街づくりには一人でも多くのボランティア不可欠の為。		
対象 (誰・何を対象に)	市内のボランティア未経験者		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	各種講座終了後、ボランティア活動につなぐ。講座終了後3%のボランティア登録を目指す。		
平成26年度 の実施状況	各ボランティア養成講座を今まで通り実施。また今年度は2年に1回の要約筆記養成講座も開催。		

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	
	課題			
	養成講座の参加者の中には、何か人の為に役に立ちたいが何をやったらいいのか、わからず参加してみた。との声が多数ありました。もっとPRが必要。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	ボランティアの内容についてもっと市民に伝達していくことが必要と考え、趣味のサークルを開催している場所等で広報活動をしていく。市民にボランティアは時間の余裕や生活スタイルに合わせて参加できる活動と認識していただく。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	取手市役所の市民協働課、市民活動支援センターに協力依頼			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年5月 ～ 27年8月	どのようにすれば多くの方に参加してもらえるか等、担当で検討していく。	
	27年9月 ～ 27年12月	キューピット等、掲載方法に工夫をこらしお知らせする。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
精神保健ボランティア講座等、他市町村ではほとんどやっていない講座が多いので今後も続けていただきボランティアの確保に努めていただきたい。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	子育て支援の輪づくり	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう	
	行動計画	2(4)	家族のれあいの機会をつくります。	
現状と課題	働くママが増加、そして核家族が多い昨今では大家族でふれあう機会が少ないと考えます。幅広い世代間で交流できる場所の提供。			
目的 (何のために)	子育て中の親子が交流・仲間づくりが出来る場づくり			
対象 (誰・何を対象に)	ファミリーサポートセンター利用会員・協力会員、または市内の親子			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	利用会員と協力会員にダイレクトメールでお知らせし、また会員以外の方にも多く参加してもらう為、市内4カ所の子育て支援センターにチラシを置き30人参加を目指す。			
平成26年度 の実施状況	6月にリトミック交流会を開催。会員以外の参加もあり楽しんで頂くことが出来ました。ファミリーサポートセンターの周知に成功。今現在は子どもを預ける必要がない方でも今後サービスが必要になった時の利用登録を期待します。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	今まで、研修会や交流会の開催時には、参加者が少ない現状でした。より多くの人に参加してほしいと考え、市内4カ所の子育て支援センターに周知の依頼をし、会員以外の参加がありました。 (参加者40名)
	課題			交流会を開催するにはまだまだ協力会員の登録が不足している。
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			子育て中の方に興味を持ってもらえる様な交流会イベントを計画する。 また、ボランティア年齢層が興味を持ってもらえる魅力的な研修会や講座を開催。
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			これからも子育て支援センター、そして取手市役所子育て支援課の協力を得てチラシ配布やポスター掲示を依頼する。
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年5月～ 27年8月	利用会員・協力会員に興味を持ち参加頂ける交流会の内容を十分に検討する。また、周知についても今まで以上に拡大できる様、担当全員で調整していく。 親子が好むリズム遊び・人形劇等ボランティア人材と探す。	
	27年9月～ 27年12月	交流会開催。利用会員・協力会員また、会員以外の参加人数50人目標。また、参加者にはアンケート等でリサーチし、今後の交流会に反映させる。		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンを新しく作るということで、大いに力を入れていただきたい。 ・会員を増やす方法として「お互い様」の関係を作れるようなプログラムを作ってほしい。また、口コミも一つの手段ではないか。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	生活課題を抱えている人への支援	担当係	藤代支所
		担当者	職名 係長 氏名 五十嵐玉枝
事業開始年度			
根拠法令等			
プランにおける該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	行動計画	①-(1)	社会資源に関する情報の収集と提供に努めます
現状と課題	<p>住民の生活課題は実に多様です。人によって知りたい情報も、相談する相手(機関)も違います。どのような制度や施設、公的機関、医療機関、人的資源があるのか、必要な人にもわかりにくい状況といえます。必要な時に必要な情報を提供できるようにするにはどうしたらいいのか、どこに聞くのがベストなのか、把握しておく必要があります。</p>		
目的(何のために)	<p>相談できずに困っている人、どこに何をどう聞いたらいいかわからない人を一人でも減らしていくため</p>		
対象(誰・何を対象に)	<p>市民全般</p>		
事業・業務の具体的内容等(何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>市民の生活課題に応えられるよう、社会資源に関する情報を収集し、ホームページや情報誌などで紹介していく。</p>		
平成26年度の実施状況	<p>ホームページに事業や各施設の内容を掲載。 情報誌126号、127号でQ&A形式で福祉情報を掲載。 8月からフェイスブックも開始、各事業所に随時 情報を掲載してもらっている。</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	2	ホームページのアクセス数の増加や、facebookや情報誌への反応も出ているので、手ごたえを感じる。	
	課題				
	高齢者等、インターネットなどが使用できない方への対応 あらゆる世代に受け入れてもらえる情報発信の方法や内容の充実				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	各事業、各事業所ごとのパンフレットやちらしの活用(継続して周知に努める) 情報誌の内容の充実 他市町村のホームページ、情報誌等を参考にする				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	各事業所との連携を保ち、話題の提供をしてもらう 市民のニーズを把握できるように、情報の収集に努める ボランティア情報誌「キューピット」との情報交換 パソコン教室の活用				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年4月 ～ 28年3月	世代別、地区別の抱えている生活課題を把握するために、人が集まる場所でアンケートやインタビューなどを試みる。 引き続き事業所間の連携を図り、情報収集と発信に努める。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	赤い羽根共同募金運動 街頭募金	担当係	藤代支所
		担当者	職名 係長 氏名 五十嵐玉枝
事業開始年度			
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	行動計画	③ー(2)	魅力あるイベントを開催します
現状と課題	10月に赤い羽根共同募金運動を展開していますが、使途がわからない、などのご意見を毎年頂戴しています。		
目的 (何のために)	赤い羽根共同募金のPRと、理解を得るため、また市民の交流の場作りのため実施		
対象 (誰・何を対象に)	市民全般		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	街頭募金として、昨年は雨天のため中止となってしまった、赤い羽根フリーマーケットの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出店料 500円 (80店舗募集) ・ グッズの配布 ・ 募金や社協のPR(ちらしの配布など) ・ 募金箱の設置 		
平成26年度 の実施状況	10月18日(土)に実施。 出店数 54店舗(出店料27,000円) 募金箱 4,445円 その他の街頭募金活動 JR取手駅、藤代駅、常総線 西取手駅、寺原駅、新取手駅(協力：取手地域女性団体連絡会) ヤオコー藤代店(協力：藤代紫水高校JRC部) マスダ戸頭店(協力：ボーイスカウト取手3) とりで産業まつり(協力：昭和産業株式会社)		

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	<p>実質初年度のせい、出店数と来場者は5月開催時より少なかった。</p> <p>のぼりや募金箱などを設置したので、来場者には赤い羽根共同募金開催中というPRはできたと感じる。</p>
	課題			
	<p>天候に左右される。</p> <p>定着するまでに時間を要すると思われる。</p>			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>出店者、来場者を増やすための準備やPRに早くから取り掛かる。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>各事業所にポスターやチラシを設置してもらう。</p>			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 27年7月	<p>5月のフリーマーケット時に秋の開催も告知 募金の使途も含めて、行事や会合等で開催のPR</p>	
	27年8月 ～ 27年10月	<p>出店数の確保と来場者数増加のため、早くから準備、PRに努める。 ホームページ等、あらゆる媒体の利用</p>		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<p>1,300人も来場者があつたつつじ園まつりのような、人が集まるプログラムと一緒にやるというの いい方法だと思います。</p>				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	見守りの輪作り	担当係	藤代支所
		担当者	職名 係長
事業開始年度		氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	行動計画	②ー(2)	みんなで守る意識を高めます
現状と課題	旧藤代地区も住民の関係が希薄になっており、何もサービスや事業が入っていない認知症の方の徘徊などが多くなってきています。		
目的 (何のために)	認知症の徘徊の方の早い発見や、虐待などの発見、孤独死の防止		
対象 (誰・何を対象に)	市民全般（主に藤代地区）		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させたいのかなど)	ボランティアなど、地域を知る方々に集まっていただき、情報を教えていただいたり、情報を伝えたりして、困っている人を一人でも少なくしたり、地域包括支援センターや警察などに正しい情報を送れるようにしたい。認知症サポーター養成講座などを紹介し、対象者に積極的な声かけや見回りをしてもらうようにする。 他にも介護家族の会や市役所、社協が行う研修などを紹介し、対処方法を学んでもらう。		
平成26年度 の実施状況	ボランティア団体の会議や集まりなどに参加し、情報の収集や協力依頼に努めた。 認知症関連の研修や講演会の把握と周知に努め、有償在宅福祉サービス協力会員やボランティアに伝達。		

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	2	ボランティアの方が認知症で徘徊している人を発見、報告してもらったことがあった。(2件) 認知症サポーター養成講座を紹介し参加してもらった。(3名) まだまだ情報は少ない現状である。
	課題			
	認知症の方を抱えて困っている世帯の発掘。 個人情報保護法との関係。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	会合や行事などに参加して情報収集に努める。 該当者の家族や近所の方等とコンタクトを取る。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	認知症サポーター養成講座を推奨。 民生委員・児童委員、自治会、ふれあいサロン等のボランティア団体との連携強化。(情報をいただけるよう、お願いしていく。) 地域包括支援センター、老人ホーム、デイサービス事業所、介護家族の会、有償在宅福祉サービス、ボランティアセンター等に協力していただき、情報を共有する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 28年3月	地区の行事や会合などに参加して情報収集を続ける。 認知症の方のマップのようなものを作成。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
地域の体制づくりも大切ですが、体制がなくても見守りはできるのではないかと思います。 徘徊した高齢者を見かけた時に、どこにつなげればいいのかわからない住民の方が多いと思うので、『子ども見守りの家』『110番』のようなものが高齢者版で、たとえばコンビニ、ガソリンスタンドなどどこでもいいので、そこに連れて行ってあげればその方が行政や警察などに連絡してくれるというような、看板の設置に協力してくれるお店やお宅を探すというのもひとつの方法だと思います。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	相談支援事業	担当係		相談支援事業所
		担当者	職名	相談支援専門員
事業開始年度	平成25年12月から		氏名	佐藤晶彦
根拠法令等	障害者総合支援法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの利用者に対して、ニーズの聞き取り、計画の作成等に多くの時間を要する。関係機関との連携、各事業所の担当者の協力を得ながらスムーズに取り組めるような配慮が必要。 ■相談支援専門員の社会資源情報の不足。 ■適切なプランニングにおける相談支援専門員の専門性、資質向上。 			
目的 (何のために)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害福祉サービスの利用を希望される方に対し、個々のニーズに合った総合的な援助や、解決すべき課題を踏まえ、最適なサービスのプランニング、モニタリングをおこなう。障害者やその家族の生活の支援に関する相談に応じ、関係機関との連携を蜜にとり、住み慣れた地域において生活できる体制をつくる。 			
対象 (誰・何を対象に)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者総合支援法の計画相談支援の対象者 ○取手市在住の方で、障害福祉サービスを申請した障害者又は障害児であって、市町村がサービス等利用計画の提出を求めた方。 			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の効率化 ○専門知識を持った職員の採用（平成27年4月までに2名程度） ■相談支援専門員の専門性、資質の向上 ○自立支援協議会等、専門研修への参加（定期的に参加 年4回程度） ■相談支援専門員の増員 ○年1回従事者研修に参加 ■新規利用者の増加 ○障害福祉課、特別支援学校との連携、他事業所との情報交換を定期的におこなう（随時、新規利用者60名増） 			
平成26年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の採用については、11月23日に筆記試験、12月16日、17日に面接試験を行い、平成27年4月より1～2名の採用を予定。 ○自立支援協議会への参加により、他事業所との連携、情報の共有を図ることが出来たが、今後も継続していく必要がある。 ○相談支援従事者研修において、2名の受講者に参加していただいた。 ○11月末日の時点において、115名の計画相談をおこなった。 			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	相談件数においては、当初の目標に近づくことは出来たが、その後のアフターフォローについては、出来ない部分があった。今後は件数を増やすより、アフターフォローへの対応が重要になってくる。
	課題			
	支援計画に基づく相談以外に、多くの相談もあり、相談支援専門員1名での対応が難しくなっている。また、一人の相談に対して、数回の面談、訪問があるので時間の使い方が今後の課題となる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	数回の面談、訪問については、状況を見て電話での確認をおこなうなど、出来るだけ時間に無駄がないよう努めた。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	様々な事例に対応できるよう、他事業所、取手市等との連携が必要になる。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 27年9月	相談支援者の増員を図ると共に、職員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会への参加をしていく。また、専門性を高める上で、現在の相談支援に支障がない状況で、他相談支援事業所へ実習に行くなど、専門性を高めていく機会を設ける。	
	27年10月 ～ 28年3月	相談支援者の増員を図ると共に、職員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会への参加をしていく。また、専門性を高める上で、現在の相談支援に支障がない状況で、他相談支援事業所へ実習に行くなど、専門性を高めていく機会を設ける。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
自立支援協議会の中にいくつかの事業所、社協の他にも相談支援事業所が入っていると思うが、入っていない団体も多い。連携のある団体が、何か福祉サービス事業所連絡協議会のようなものを社協というより、市になるかと思うが作ってはどうか。社協として一般相談も多いと思うが、市が委託可能ということだが、経費の問題もあり障害福祉についての一般相談は障害福祉課がやっている。社協が実際には相談をしているので、それに対する助成をしてほしいと話している。社協においてもぜひよろしくお願ひしたいと思っている。限られた人数のなかで、事業をどんどん増やしていくと本来やるべき仕事が出来ないのではないか。社協の負担も大きくなるので、平行して減らしていかないとならないのではないか。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成26年度
実施項目名	市内、小・中・高校の実習受け入れ等による地域啓蒙活動	担当係		つつじ園
		担当者	職名	嘱託職員
事業開始年度	平成26年度		氏名	村田 隆紀
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実	
	行動計画	④(1)	お互いを理解しあう意識啓発に努めます。	
現状と課題	以前より実習の受け入れは行ってきたものの、まだまだお互いを理解しあうという部分では足りないところがあります。			
目的 (何のために)	より交流を深めることによって知的障害について理解していただくきっかけとなるようにしたい。			
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が小、中、高校生を対象とする。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	戸頭東小、取手一中、取手二高など近隣の学校を、クラブ活動、作業、清掃活動、体力づくり等の時間で受け入れる。事前の打ち合わせや受け入れ後のフォローアップを含め、生徒さんが直接利用者と関わっていただく機会を出来るだけ多く設け、お互いにうまくコミュニケーションが取れるようにサポートしていく。興味のある生徒にはボランティアにつながるような支援もしていきたい。			
平成26年度 の実施状況	戸頭東小、取手一中、戸頭中、取手二高、千葉県立柏高校、江戸川学園などの生徒さんを総合学習の時間等で受け入れてきた中で、その後に少数ではあるがつつじ園まつりなどでボランティアとして関わっていただくことができた。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	実習は積極的に受け入れてきたが、事前の打ち合わせや受け入れ後のフォローアップと言うところでは不十分であったこともあり、その後のボランティアにつながったケースはあまり多くなかった。	
	課題				
	交流を深めることによって知的障害について理解していただくきっかけ・・・というところまでは至らなかった。実習後に引き続き自然につつじ園と関わっていただけるような雰囲気と支援体制を構築することが課題と思われる。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	学校側の担当者との打ち合わせを行い、実習後に希望者はつつじ園でボランティア活動が出来る旨をボランティア募集のチラシを配布させていただき周知したい。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	近隣小中高等学校との連携の強化、実習の受け入れ先の拡大を検討。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年4月 ～ 27年12月	実習前につつじ園についての理解を深めてもらえるような機会を授業時間の中で設けていただけるようにしたい。		
		28年1月 ～ 28年3月	実習後につつじ園とのかかわりをもち続けていただけるようなフォローアップを行いたい。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただけるよう継続的な支援をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成26年度	
実施項目名	つつじ園まつりの開催			担当係	つつじ園
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度				氏名
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実		
	行動計画	③(2)	魅力あるイベントを開催します。		
現状と課題	戸頭地区でも高齢化が進む中で地域の皆さんが気軽に集える場所がなくなってきています。				
目的 (何のために)	つつじ園まつりを通して市民の皆さんにつつじ園を知っていただき、地域の集いの場となるようにしたい。				
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が市民の皆さんを対象にする。				
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	10月の第3日曜日に実施、毎年およそ1200名のご来場者あります。魅力あるステージ発表、広報活動の充実、出店数も増やし来場者数の増加(1500名)を目指し、毎年恒例の活気あるイベントとしたいです。				
平成26年度の実施状況	10月19日(日)に実施。天候にも恵まれたこともあり来場者数の目標もほぼ達成することができました。				

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	4月～3月	4	早い段階から担当で話し合いを持ち準備に取り組みました。①ブログ、フェイスブック、ホームページ、近隣へのチラシの配布などの広報活動をしっかり行った事。②野菜の販売や新規の飲食系の出店を多く集めることが出来た事。③ステージ発表に近隣の皆さんの興味ひくゲストを招くことが出来た事。上記の点についての取り組みがうまく出来た事が集客に大きくつながりました。	
	課題			
	つつじ園祭り始まって以来の来園者があつたので駐車場が不足してしまい苦情になってしまいました。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	駐車場に関しては近隣のショッピングセンター等をお願いして、次年度はご協力いただけるとのお話をいただいた。その他にもいくつか（借用物について、連絡ミスなど）次年度への課題はあつたが今年度の担当者並びに正職員で対応策はすでに検討している。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	協力団体やボランティアには説明会を実施している。参加できなかった団体への連絡が滞ってしまったところがあつたので来年度は注意したい。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月～27年8月	テーマ・方向性を早めに決めて半年前には準備を開始できるようにしたい。	
	27年9月～27年11月	実施後は詳細な来年度への引継ぎを残し、次年度はより良いイベントとなるようにしていく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただけるよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成26年度	
実施項目名	地域清掃活動の実施			担当係	つつじ園
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度				氏名
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実		
	行動計画	②(2)	みんなで守る意識を高めます。		
現状と課題	近隣の市民の皆さんとの交流の機会が不足しています。				
目的 (何のために)	清掃活動を通して地域の皆さんとの交流のきっかけを作り、近隣との助け合い活動への意識を高めます。				
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が戸頭団地周辺の市民を対象とする。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつま でに・どのレベ ルまで達成させ たいのかなど)	秋から冬にかけて戸頭公園の清掃作業（落ち葉拾い）に取り組みます。毎日の散歩の際に近隣住民の方が良く声をかけてくれるのでこちらからも積極的にアプローチを行い、コミュニケーションをとりたいと思います。自治会主催の清掃活動への参加は日程的に難しいと思われませんが、今後、地域の皆さんと一緒に活動（助け合い活動）を行なっていくきっかけとなるようにしたいです。				
平成26年度 の実施状況	昨年、一昨年と実施してきた戸頭公園での清掃活動ですが今年度は取り組みが遅れた事と、天候不良もあり12月末日現在では実施に至っていません。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	2	企画はしたものの予備日を含め天候不良となり実施できませんでした。	
	課題				
	施設の年間計画もあり天候不良となれば致し方ない部分もありますが、それに変わる活動も検討していきたいと思えます。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	今までは冬の活動として取り組んでいたが、春先に出来るような活動があれば取り組んでみたい。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	戸頭団地自治会、民生委員、シルバー人材センターとの連携の強化				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年4月 ～ 27年12月	年間計画の中の活動の一つとして計画したい。		
28年1月 ～ 28年3月		翌年の担当者への引継ぎをしっかりと残すことを心掛けたい。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただけるよう継続的な支援をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成26年度	
実施項目名	ボランティアの受け入れ、交流会の実施			担当係	つつじ園
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度				氏名
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実		
	行動計画	③(4)	福祉施設との交流の機会を増やします。		
現状と課題	地域のボランティアや特定のグループに支援はいただいておりますが固定化、高齢化、若者の参加が少ないところです。つつじ園は戸頭地区での知名度はあるものの交流の機会が少ないのが現状です。				
目的 (何のために)	障害者と市民の交流の場となるようにふれあいの機会を増やします。				
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員がボランティア希望者を対象とする。				
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	広報とりで、キューピット、独自のチラシの配布やホームページ、ブログ等を通して広くボランティアを募集。作業、散歩、外出支援など得意なボランティア活動に取り組む中でつつじ園と関わっていただきたい。その中で障害者への理解を深めていただくとともに、つつじ園のレクリエーション活動(芋ほり&焼き芋、バーベキュー、流しそうめん、ウォークラリーなど)行事など参加していただき、徐々に地域の皆さんが気軽に集まれる場となっていくようにしたい。				
平成26年度の実施状況	ボランティアの募集は年間を通じて行ってきました。特に広報とりでを通じての反響が大きく作業ボランティアの参加状況については前年度をより大きく上回っています。				

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	4月～3月	3	作業ボランティア（さをり、縫製、ちらし入れ作業）の数は前年度より1ヶ月当たりで延べ30名以上増加しました。また外出時にお手伝いいただける方も各グループごとに確保できるようになってきました。しかしながら、レクリエーションへの参加やつつじ園利用者との交流と言う段階までは至っていないのが現状です。	
	課題			
	作業等のボランティアは増えましたが、利用者・ボランティア・職員・保護者・近隣住民の皆さん等との交流の機会が不足しています。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	ボランティアさんにとってもつつじ園に来ることが楽しみになるように交流会などの実施を検討していきたいです。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	ボランティアの募集は継続するとともに、民生委員との連携の強化にも取り組んでいきたいです。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月～27年4月	担当職員を各グループごとに決定し年間ボランティア協力者数の目標を設定したい。	
	27年7月～28年3月	早い段階で交流会を企画、ボランティアさんに周知し交流会を楽しんでいただけるようにしたい。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただけるよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	ボランティアの受け入れ	担当係	障害者福祉センターふじしろ
		担当者	職名 施設長
事業開始年度		氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	行動計画	③(4)	福祉施設との交流の機会を増やします
現状と課題	<p>現在、2～3団体のボランティアグループや、センター職員OBの方々など個人ボランティアが来て下さったり、行事を提供してくださっていますが、まだまだ地域の方の認知度は低いように思われます。</p> <p>職員も実際にボランティアに何をどうやってもらうのが利用者やセンターにとっていいのか、手探りの状態です。</p>		
目的 (何のために)	センターの存在を知ってもらい、地域になじみ、一人でも多くの方がボランティアに来てもらえるようにしたいです。		
対象 (誰・何を対象に)	市民全般		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>ボランティア団体やご近所の町会、自治会などの会議や行事など、また学校などにも顔出しをして、障害者センターふじしろの活動を知ってもらう。</p> <p>また、受け入れ体制もより整備していきたい。</p> <p>現在お世話になっているボランティアさんにも、感謝の気持ちを込めて、利用者や職員との交流の機会を作りたい。</p>		
平成26年度 の実施状況	<p>ボランティアの状況</p> <p>はとの会 毎月 書道教室、絵画教室、体操教室、作業のお手伝いに2～5名来所 はとの会主催の「ふれあいの輪」(6月)に利用者を招待して下さる OBの方4名 毎月1～2回 革製品など工芸品作りで来所、イベント時の販売のお手伝い 楽研会 年2回 包丁研ぎで来所 おとうさん友の会 11月の収穫祭に利用者を招待して下さる 他 個人ボランティアの方 月5～10回 作業のお手伝いなど</p> <p>その他</p> <p>クリスマス会に、はとの会会員6名を招待(OBの方などは欠席) 利用者と一緒に食事やレクリエーションを楽しんでいただいた。</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	<p>センターの知名度を上げるべく、いろいろなお祭りや地域のイベントなどにも積極的に参加した結果、センターに工芸品や野菜などを購入に来てくださる方が増え、その中でボランティアに興味を持ってくださる方もいた。</p> <p>ボランティアとの交流(クリスマス会)は、ボランティアの方も喜んでくださったが、利用者も作業や教室ではなくレクリエーションなどの楽しいひとときと一緒に過ごせて、その後の作業意欲の向上にもつながった。</p>		
	課題					
	<p>一般の方がボランティア活動でなくてもいいので、気軽に立ち寄りやすい環境整備が必要。行事を手伝ってもらうボランティア、日頃の作業を支援してくれるボランティア、緊急なお願いでも対応して来てくれるボランティアなど、もう少し人数を確保したい。しかし呼びかけをしていくにあたって、利用者の不安や戸惑いを取り除き、現在来ていただいているボランティアさんとの関係性も壊さないように進めていく必要がある。</p>					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	<p>ご近所を訪問。工芸品や行事の告知、包丁研ぎボランティア楽研会さんが来るときなどのお知らせのちらしを配布させてもらうようにしたりしながら、段々とセンターや利用者との距離を縮めていけるようにする。また入りやすい雰囲気を作るためにポスターを貼ったり、作業中の見学の受け入れ等も検討して、そこからボランティアにも来てもらえるようにつなげていきたい。</p>					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	<p>ボランティアセンターにボランティアを紹介してもらったり、キューピットにも時々、活動等の紹介記事を掲載してもらう。学校等にも呼びかけをする。つつじ園にも都度、相談や情報の交換をしていく。</p>					
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明			
		27年4月 ～ 28年3月	<p>引き続き学校等訪問。 センター行事予定や販売などのちらしを公民館等の公共機関に貼らせてもらったり、会議等で配布する。 ホームページ、facebook、キューピットへの掲載や、販売時のチラシ配布など、認知度の向上に努める。 ボランティアさんとの交流を図る機会を設けたい。(クリスマス会やもちつき大会など既存の行事を活用)</p>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
<p>平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。</p>						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	学校の福祉体験学習受け入れ	担当係		障害者福祉センターふじしろ
		担当者	職名	施設長
事業開始年度			氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	④(1)	お互いを理解しあう意識啓発に努めます	
現状と課題	体験学習は、学校やPTAから申し出があれば、児童や生徒を随時受け入れていますが、その場の体験で終了してしまうように思われます。			
目的 (何のために)	知的障害について、障害者について、理解や交流を深めてもらい、将来でもいいので、また体験やボランティアで何度も来てもらうようにしたいです。まわりにも広めていってほしいです。			
対象 (誰・何を対象に)	市内小・中・高等学校 児童・生徒の皆さん 特に近くの学校			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	学校に、体験の受け入れをしていることを訪問して説明したり、ホームページやいろいろな媒体を通じてPRをし、たくさんの学校と交流を持てるようにしたい。若い方たちが来ることで、利用者にも良い効果があるのではないかと考える。 可能であれば、学校の授業の中で説明などを職員で行なってみたい。			
平成26年度 の実施状況	藤代紫水高に訪問 JRC部顧問教諭に、障害者福祉センターの説明と受け入れの準備があることを説明 藤代小学校体験学習の受け入れ(1回目 3年生全員 2回目 希望者とその保護者) センター概要説明と、利用者と一緒に作業 藤代南中職場体験受け入れ(2年生男子2名 1日) センター概要説明と、利用者と一緒に作業 伊奈特別支援学校PTA見学会受け入れ(11月 9名) 畑作業視察 伊奈特別支援学校体験学習受け入れ(1名 夏休み4日間) 作業実習			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	<p>藤代小は初回の体験が勉強になったということで、希望者のみだが2回来てくれ、2回目はPTAの方も一緒に学んでくれた。</p> <p>3年生(低学年)だったので、作業や交流が円滑にできるか不安もあったが、利用者と一緒に作業をすることで自然に交流を深めてくれ、利用者にも作業意欲が出て、お互いに良い体験になっている。来年度も来所を検討して下さるとのことであった。</p> <p>藤代南中(男子2名)は職場体験ということで、実際に職員の仕事を目の当たりにし、仕事の厳しさ、大変さと福祉に対する理解を深め、また利用者として作業をしているうちに積極的に利用者として打ち解けようという姿勢が見られた。利用者も自分たちよりも年齢の低い実習生が来ると、緊張と楽しみとが混じって、良い効果が表れるようである。1名は将来ボランティアでも来てみたいという希望があった。</p>
	課題			
	1校の体験の日数をもう少し増やしたいが、学校側の時間の制限もあり厳しい。また複数の学校の体験を受け付けたいが、認知度が低いいためか1～2校の来所にとどまっている。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>学校の理解や協力を得られるよう、引き続き訪問などをしてセンターのPRを行なっていく。</p> <p>子ども向けの障害についての手引書のようなものを探す(または作成)。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>ボランティアグループが行う行事などの利用。</p> <p>例：はとの会主催のふれあいの輪(6月開催)等に参加をしてもらえるように声かけ、PR</p> <p>ボランティアセンターが推進しているボランティア協力校の活用</p> <p>つつじ園やボランティアセンターと情報交換</p>			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 28年3月	<p>小中学校、高校等訪問。</p> <p>授業の中で障害者福祉センターふじしろ事業等、体験の受け入れについて説明にうかがい、何かの授業時間等で障害者福祉センターについて説明をさせてもらう機会を作っていたらよい、働きかけていく。</p> <p>体験学習の受け入れ継続。</p>	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成26年度	
実施項目名	利用者の社会参加促進による意識の啓発	担当係		障害者福祉センターあけぼの	
		担当者	職名	係長	
事業開始年度	平成26年度		氏名	新木 勇人	
根拠法令等	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実		
	行動計画	④.(1)	障がいへの偏見をなくし、地域の生活環境・意識を改善する。		
現状と課題	身体障がい者の差別や偏見を無くし、より理解を得る必要がある。具体的な課題は健常者と同等の生活環境を得られないことである。そうした不利益のない社会を実現するために、出会いの機会を多く持ち、広く市民の意識を変える必要がある。				
目的 (何のために)	障がい特性を理解することにより、差別と偏見を無くし、健常者と同等の生活環境を実現する。加えて、市民の意識を変えるため。				
対象 (誰・何を対象に)	あけぼのの利用者と職員が、一般市民を対象に行う。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	クラブ活動の発表を通して広く一般の方々とふれあいの場を企図。7月・9月・12月を基本として年3回以上行う。また、公共の場における出会いの機会として、作品の出展・展示を行い広く不特定の市民に対し障がい者への理解を進める。加えて、公共の場において買い物等を行う外出活動を年6回以上、延べ30人以上の参加をもって実施する。				
平成26年度 の実施状況	①8月に七夕コンサートをあけぼの大広間において大々的に実施。②9月には市内関係団体と共催される共同防災訓練に参加し、実地訓練などを行う。③また、恒例行事の「あけぼの芸能発表会」の中で、創作的活動、レクリエーション活動など、障害者の日頃の活動の内容発表の場として、多数の来場者の興味関心を集める。④10月にさくら荘主催で行われた「さくら荘ウォーキング」において絵手紙活動の作品を参加賞として贈ることで障害者への理解を得る一助とした。⑤11月には県主催の「ナイスハートフェスティバル」に創作的活動の作品を展示発表。⑥12月には取手市福祉交流センターで「とっておきの芸術祭 in とりで」においても音楽クラブや各種活動の内容を発表し、本目標における行動を進めた。⑦園芸クラブとして必要なものについて利用者と話し合い、公共の場における買い物を実施。春物として年度末にも実施を予定している。				

進行管理	成果状況	成果状況評価	成果状況に対する説明
		4月～3月	4
	課題		
	より多くの方にあげぼのにおける活動の様子を知ってもらうため、足を運んでいただけるように、既存の方法にとられない形で広報的内容を拡げる。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	より多くの方と交流を持てるよう障害者福祉センター以外の一般の方々にも声をかけていく。また、参加者の手元に残るような記念品や歌詞カードを用意する。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	特に高齢者施設として、老人福祉センターあげぼの・老人福祉センターさくら荘と協働・連携をとり、当日の交通手段について打ち合わせをしたり、会場内で楽しめる方法などを互いに検討する。その他、知的障害者施設としてつつじ園と連携をとり、互いの利用者が楽しめるよう配慮する。またチラシなどで情報を宣伝。近隣の民間介護保険施設、老人クラブ、公民館等、新聞社など、既存の枠を超えて周知活動を行う。		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
		27年5月～28年2月	市外への外出や見学の行事、活動内容発表の機会を増やし、障害者への理解を深め、偏見を無くすため、季節ごとにその機会を設けたり、行ったことの無い場所へ行くことで、社会参加の様子を体現し、健常者と同等の生活環境を求めていることを、また、その様子を社協本部の動きと協働して、ホームページやフェイスブックを活用し、周知・理解に努め、地域社会にアピールしていく。
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成27年度も住民ニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度
実施項目名	発達相談事業	担当係	取手市立こども発達センター
		担当者	職名 氏名
事業開始年度	平成18年度		
根拠法令等	児童福祉法		
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実
	行動計画	②, (1)	ニーズを早く解決する仕組みをつくります
現状と課題	<p>■発達面が心配のお子さんで当センター利用を希望する場合は、面談（初回相談）を受けていただきます。電話での予約が必要です。その後、市障害福祉課職員（発達支援専門員）が2名体制で相談に応じます。現在、相談件数が多いため初回の相談までに1ヶ月以上かかります。</p> <p>■すでに当センターを利用しているお子さんの発達及び就学については随時、当センター所属の相</p>		
目的 (何のために)	<p>■発達につまずきや遅れのあるお子さんの為の相談事業です。当センターを利用するための相談、そしてすでに当センターを利用しているお子さんの心配ごとや就学に関する相談を行いません。</p>		
対象 (誰・何を対象に)	<p>■取手市内在住で発達に心配のある未就学のお子さんとその保護者を対象とします。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>■子育て中の保護者の心配ごと（ことば・運動面など）の相談を電話で受けています。その際、療育が必要と思われる相談の場合には、市障害福祉課職員（発達支援専門員）の面談（初回相談）を受けていただきます。また、保育所や保育園、幼稚園での集団生活での心配ごとなど保護者に対しての相談にも応じます。</p> <p>■当センターの利用児で、就学を控えたお子さんの保護者の相談に応じたり、市教育委員会や学校との連携を行います。</p> <p>■その他として、療育手帳の申請に関し、市担当課との連携を行い医療機関や他機関の紹介などを行います。</p>		
平成26年度 の実施状況	<p>■市保健センターが行っている、1歳6ヶ月健診や3歳児健診の際に保健師の紹介により当センターの利用を希望するケースが多く、その際には市障害福祉課職員（発達支援専門員）により面談（初回相談）を受けていただきます。</p> <p>■幼稚園や保育所、保育園に通っているお子さんが利用する場合は担当の先生からの紹介を受け、発達支援専門員への面談（初回相談）へ繋がります。</p> <p>■就学相談においては、当センター利用児69名を対象に行いました。小学校入学にあたり、心配ごとについての対応を市教育委員会と連携を図りながら実施いたしました。</p>		

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～3月	4
	<ul style="list-style-type: none"> ■市障害福祉課職員（発達支援専門員）による面談（初回相談）件数 4月～12月：80件 1月～3月：相談予定件数は7件。随時受け付けています。 ■発達相談（当センター相談員対応）：23件 ■就学相談（当センター相談員対応）：69人中55件 就学相談においては、保護者の希望制であるため強くは勧めていません。 ■医療機関紹介相談（当センター相談員対応）：21件 		
	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ■現状における課題のとおり相談希望者が多く、発達支援専門員による面談（初回相談）に繋がるまでに1ヶ月以上の時間を要します。 		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<ul style="list-style-type: none"> ■市障害福祉課職員と連絡会を持ちながら相談件数の確認を取り、待機が出ない範囲でサービスの受け入れを行ないます。 		
	協働・連携事項（目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について）		
	<ul style="list-style-type: none"> ■関係機関との連携を密に行い、情報の共有をしながらスムーズに面談（初回相談）へと繋げるように進めていきます。 		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
27年4月～27年9月		<ul style="list-style-type: none"> ■随時、市障害福祉課職員と連絡会を行い状況を把握しながら相談を進めていきます。 ■お子さんの日常生活での心配ごと、療育に関する事など保護者の相談に応じて行きます。また就学を控えたお子さんの保護者の相談に応じ、市教育委員会や学校との連携を行います。 	
27年10月～28年3月		<ul style="list-style-type: none"> ※前期同様に相談事業を進めて行きます。 ■随時、市役所担当課職員と連絡会を行い状況把握を行いながら初回相談を進めていきます。 ■お子さんの日常生活での心配ごと、療育に関する事など保護者の相談に応じて行きます。また、就学を控えたお子さんの保護者の相談に応じ、市教育委員会や学校との連携を行います。 	
<p style="text-align: center;">取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見</p> <p>平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう支援をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度									
実施項目名	取手市立保育所との保育交流		担当係		取手市立こども発達センター							
			担当者	職名	児童発達支援管理責任者							
事業開始年度	昭和55年度			氏名	宮崎江美子							
根拠法令等												
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実									
	行動計画	③, (4)	福祉施設との交流の機会を増やします									
現状と課題	<p>■当センター単独通園児の年中、年長児1～3名、年少児1～2名が取手市立保育所7ヶ所において月1回、午前中1時間程度活動に参加しています。課題によっては、同年齢での活動参加が難しい場合もあります。</p> <p>■現在は、保育所に伺っていますが、お世話になっている保育所のお子さん方を当センターに招き、交流を深めて行きたいと考えています。</p>											
目的 (何のために)	<p>■当センターの単独通園の利用児が地域で同年齢のお子さんとは交流することで、対人関係を構築していきます。また通常と異なる環境の中で集団活動を経験することにより社会性を身に付けます。</p>											
対象 (誰・何を対象に)	<p>■こども発達センターの単独通園を利用しているお子さんと、取手市立保育所7ヶ所のお子さんを対象とします。</p>											
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>■発達センター単独通園児の年中、年長児1～3名、年少児1～2名が毎月1回、市立保育所との保育交流を行っています。</p> <p>【保育交流の流れ】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">～ 9:50</td> <td>保護者が各保育所に送る</td> </tr> <tr> <td>10:00～11:00</td> <td>保育所の活動に参加</td> </tr> <tr> <td>11:15</td> <td>発達センター送迎車が参加する保育士、お子さんの迎え</td> </tr> <tr> <td>11:30～</td> <td>発達センター各クラスにて通常の活動に参加</td> </tr> </table> <p>■年度末に行われる所長会議に参加し、当センターとしての反省点をお伝えします。また、保育所側の要望を聞くなど、次年度に続くように意見交換を行います。</p>				～ 9:50	保護者が各保育所に送る	10:00～11:00	保育所の活動に参加	11:15	発達センター送迎車が参加する保育士、お子さんの迎え	11:30～	発達センター各クラスにて通常の活動に参加
～ 9:50	保護者が各保育所に送る											
10:00～11:00	保育所の活動に参加											
11:15	発達センター送迎車が参加する保育士、お子さんの迎え											
11:30～	発達センター各クラスにて通常の活動に参加											
平成26年度 の実施状況	<p>■4月中に各保育所へ交流に出るお子さんのグループを決めて、5月より実施します。事前に保育所の担当職員と連絡を取り、参加人数や活動確認を行い交流を深めます。</p>											

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～3月	3
	<p>■単独通園利用児については、毎月1回定期的に市内公立保育所との保育交流に参加し、地域のお子さんに関わる経験を広げることができました。</p> <p>白山保育所（第3火曜日）：3名 久賀保育所（第2水曜日）：2名 舟山保育所（第2水曜日）：3名 永山保育所（第1木曜日）：2名 中央保育所（第2木曜日）：4名 戸頭北保育所（第3金曜日）：3名 吉田保育所（第2火曜日）：2名</p> <p>■保育所でお世話になっているクラスのお子さんを当センターに招待する事が実施できていません。</p>		
	課題		
	■年間を通して、保育所と当センターの活動の確認ができていません。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	■保育所と当センターとの行事や活動の調整を行いながら親交を深めていきます。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	■保育交流受け入れクラスの担当職員と当センターの職員との間で、事前に連絡会を実施し、双方の行事や活動内容を確認し、お互いに保育交流の目的を理解します。		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
27年4月～27年9月		■担当職員の連絡会を実施し日程調整を行い、保育交流の目的等を確認し地域の中で同年齢のお子さんと交流を深めていきます。	
27年10月～28年3月		■保育交流を行なったクラスのお子さんを当センターに招き、さらなる交流を深めます。また、前期同様担当職員の連絡会を実施し、反省点等を話し合いながら次年度に繋げていきます。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成27年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう支援をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	魅力あるイベントの開催	担当係		あけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度			氏名	橋本 睦
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実	
	行動計画	③.(2)	魅力ありイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は、より大きくなってきています。しかし、その利用者は年々減少しており、この減少傾向を止め、なんとか増加させることが求められています。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、あけぼのの利用者を増加させる。そのためには、今までのあけぼののイメージを一新させるため、みんなの集まる大広間を利用したイベントを計画する。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	あけぼの大広間を活用し「百人一首大会」を11月中に開催する。 広報とりでや、社協ホームページ等で参加者の募集を行う。毎年1回開催することにより、地域に住む高齢者の交流の場とあけぼのイベントの1つの目玉とする。 近隣の小学生(高学年)と高齢者の世代間交流も考え、利用料について高齢福祉課と調整中。			
平成26年度 の実施状況	10月30日(木)あけぼの大広間にて「あけぼの百人一首大会」を実施した。5人を1チームとし、3回戦まで行い、優勝・準優勝・3位・ブービー賞をもうけ表彰状と副賞を授与した。結果が出るまでの間、お茶を飲みながら参加者同士のコミュニケーションも図った。 55名の申込みがあり、49名の参加となった。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	4	百人一首大会は10月30日（木）に実施することが出来た。この大会開催により、目的であった利用者を増やすことも達成できた。またアンケート調査結果から、この大会が良かった事、今後も参加したい事がわかった。（別紙添付）
	課題			
	<ul style="list-style-type: none"> ・百人一首大会での世代間交流は、利用料の調整がつかず交流は出来なかったが、別の形で世代間交流を考えていく。開催を通して係員の人数が少なかった等 改善点が明らかになった。実施方法を再検討していく事で、さらなる集客に結びつけていくことが出来る。 			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流は趣味教室全体で声かけをし、受け入れ態勢を整えた上で、近隣小学校や保育所との世代間交流を実施していく。 ・人員配置や人員増・ルールの見直しをする。 			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・百人一首大会ではボランティアグループへ依頼する。 ・世代間交流の趣味教室では、今現在交流のある永山小学校や戸頭東保育所と連携をとりながら、世代間交流を広げる。 			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年9月 ～ 27年11月	第二回あけぼの百人一首大会の開催に向けて、市の広報課やボランティアの方々と打合せを行い、進めていく。	
	27年5月 ～ 27年10月	あけぼの趣味教室に声かけをしていき、世代間交流に同意してくれる教室の声かけを行う。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
5色百人一首や、書初め大会などで小学生と高齢者の世代間交流を図ってみてはいかがでしょうか。今後も継続的支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	魅力あるイベントの開催	担当係		老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	中村 多美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	<p>高齢者が気軽に通える居場所が少なくなってきた中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることが求められているということで、昨年度は新しい事業として①そば打ち教室②体操教室（いきいきヘルス体操とチューブ体操）③京ことばで読む源氏物語（5回開催）④岡台地の史跡を巡るウォーキング等の事業を行い、減少傾向を止めることができました。今年度はさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催していきます。</p>			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<p>①さくらまつりを更に活性化させる。 昨年度に比べ新規の模擬店等を1つ以上増加させる。 ②新講座として“シニアからの英語 書いて 歌って”を毎月1回、年間12回実施する。 この事業をさらに魅力的にするために、以下の対策を取る。 ア) 12月にはクリスマス会と称し会を開き、毎回練習している英語の歌を受講生全員で大広間のカラオケで合唱する。 イ) 年間12回の講義の中で1～2回、国際交流協会に入会している外国人の人に来てもらい、本場の英語を体験する機会を設ける。 ウ) 最終的には、来年度（ステップアップ）講座を行う際に、進んで参加してもらえよう内容の充実に努める。</p>			
平成26年度 の実施状況	<p>①さくらまつりにおいては、昨年度に比べ新規の模擬店等を1つ以上増加させるために、模擬店出店予定者等に依頼を行った。 ②“シニアからの英語 書いて 歌って”においては、ア) 12月26日にクリスマス会を開き、毎回練習している英語の歌（2曲）・受講生のハーモニカ演奏でクリスマスソング（5曲）を全員で合唱し、ゲームとして10分間日本語禁止ゲーム（英語で交流）を行った。参加費200円を徴収しお茶とお菓子を用意し、普段とは違う雰囲気講座ができた。 イ) 12月のクリスマス会に国際交流協会に入会している外国人に来てもらい、本場の英語を体験することができた。 ウ) 来年度（ステップアップ）講座を行うために、アンケート調査を行った。</p>			

進行管理	成果状況	成果状況に対する説明		
		4月～3月	4 ①さくらまつりは4月5日(土)に開催し、昨年度に比べ新規模擬店6店増・催し物として演芸1グループ増である。 ②“シニアからの英語 書いて 歌って”を4月から毎月1回、年12回実施した。 延べ出席者数は、286人である。 ア) クリスマス会 21人出席者があり楽しく会を開催した。 イ) 会に参加していただき受講者が本場の英語を体験することができた。 ウ) アンケート調査の結果 回答者数 21名 (※結果 別紙参照) *ステップアップの講座を受講希望する方 19名 受講希望しない方 2名 アンケートの結果 90%の方がステップアップしたいと考えている。	
	課題			
	①さくらまつり開催においては、出店・催し場所が限られているので、出店できる模擬店・グループが決まってしまう。また、駐車場が少ない為、駐車場の確保が必要である。 ②“シニアからの英語 書いて 歌って”においては、受講生同士の交流が少ないのが課題である。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	①さくらまつり開催においては、出店・催し場所が限られてしまうので、毎年出店ではなく1年おきに交互に出店、参加団体を募る。また、駐車場の確保をする。 ②“シニアからの英語 書いて 歌って”においては、平成26年度に一回だった交流会をもう一回増やし、受講生同士の交流を深める。(年2回)			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	①さくらまつり開催においては、行政、ボランティアグループ、各種団体等との連携をとる。 ②“シニアからの英語 書いて 歌って”においては、講師の方が国際交流協会の理事のため、国際交流協会との連携を保つ。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年11月～28年3月	平成28年度開催のさくらまつりに向けて、ボランティアグループ、各種団体への依頼、打ち合せを行う。 また、駐車場を確保するため依頼、打ち合せを行う。	
27年4月～28年3月	“シニアからの英語 書いて 歌って”は、ステップアップの講座を毎月1回開催する。(年間12回) 受講生同士の交流のため、年2回交流会を開催する。 本場の英語を体験するため、年2回ぐらい国際交流協会に依頼し外国人に参加してもらう。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成27年度も住民ニーズに沿った計画を進行させていただきよう継続的な支援をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度	
実施項目名	愛の定期便活動を通しての見守りネットワークづくり	担当係		取手ヘルパーステーション
		担当者	職名	管理者
事業開始年度	平成26年度		氏名	田之上由香
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	②. (3)	見守り助け合いネットワークづくり努めます。	
現状と課題	<p>少子高齢化や核家族化が進行し、独居の方や高齢者世帯の方が多くなっています。近隣関係が希薄になってきており、孤独死の増加が懸念されます。取手ヘルパーステーションでは取手市からの委託事業である「愛の定期便」を行っています。希望される閉じこもりがちな方を対象に乳製品を配布して安否の確認をしています。この事業だけでは希望の方だけになってしまい限界があるのが現状です。</p>			
目的 (何のために)	<p>愛の定期便活動を通して、利用者以外の方でも異変等を早期に発見する事ができ、迅速に対応できるようなネットワークづくりをしていく事を目的とする。</p>			
対象 (誰・何を対象に)	<p>取手市在住の高齢者世帯の方や一人暮らしの方を対象とする。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳製品（ヤクルト）配布日 月曜、水曜⇒ヤクルトさん（井野センター、戸頭センター） 金曜⇒取手市社会福祉協議会ヘルパーステーション ・愛の定期便訪問時に本人の不安や心配な事を傾聴しながら、近所の方などの異変や気になる事なども情報収集できるような関係を作っていく。 ・訪問先のご近所の方にも積極的に挨拶や声かけを行い、訪問活動をしている際に徘徊等の異変を感じたら早期に対応できるようにしていく。 ・最終的にはヤクルトさんや取手ヘルパーだけでなく、愛の定期便活動を通して地域住民同士で見守りができるネットワークを構築できるようにしていく。 			
平成26年度 の実施状況	<p>愛の定期便活動での訪問時に、ご本人の話を傾聴し近所での異変等の情報収集をする事ができた。ヤクルトさんと取手ヘルパーで連携を密にとり、必要があれば市役所へつなぐなどの体制は確立はできている。</p>			

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	4月～3月	3	愛の定期便活動を通して、訪問先以外でも顔見知りのご近所の方に積極的に挨拶や声かけを行うことができた。しかし地域での見守りネットワークを構築するにはヤクルトさんと取手ヘルパーだけの連携では不十分であり、課題が多く残る。
	課題		
	ヤクルトさんと取手ヘルパーとの連携は図れているが、住民同士や電気やガス設備などの専門機関との連携は確立していない。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	平成27年度の介護保険法改正で地域での活動が重要視されている事もあり、地域資源や専門機関との連携がとれるようにネットワークを構築していく事が必要になってくる。多職種との連携がとれるように話し合いの場を設けたりする事で地域での見守り意識を高めるようにしていく。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	愛の定期便活動を通して地域の方と触れ合いながらお話しを傾聴する事で、地域での異変が早期に発見できるようにしていく。心配な方などは連携をとり地域で見守りができるようにしていく。		
	期間		今後の方向性の説明
	27年5月～27年8月		愛の定期便活動を通して、地域住民の異変等を早期に発見できるよう積極的に訪問先以外のご近所の方への挨拶や声かけを継続していく。また常に情報が収集できて対応ができるような体制を整えていく。
27年9月～27年12月		愛の定期便活動を通して、地域住民の異変等を早期に発見できるよう積極的に訪問先以外のご近所の方への挨拶や声かけを継続していく。また常に情報が収集できて対応ができるような体制を整えていく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・愛の定期便を知らない人がたくさんいて、お年寄りの方でも近所とあまり関わりたくない方もいる。もっと多くの方が利用出来て、市の方にはいろんなサービスがある事をもっと知ってもらう方法はないか。 ・愛の定期便、ヤクルトの配布がなかなか周知されていないということだが、見守りといっても拒絶されるお宅があって、そういった人達と関わりたいが、もう一步踏み込めないということがある中で、人との関わりの苦手な方のプログラムとして、人を介さない機械警備で安否確認をする方法として、民間の警備会社があるということも知っておいてよいかと思う。 			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成26年度		
実施項目名	愛の定期便によるひとり暮らしの高齢者の見守りネットワークづくり		担当係		ホームケアふじしろ
			担当者	職名	管理者
事業開始年度	平成26年度			氏名	亀井恵子
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう- 福祉サービスの充実		
	行動計画	②(3)	見守り助け合いネットワークづくりに努めます。		
現状と課題	<p>「愛の定期便」(市から委託事業) 月、水、金、(週3回)ひとり暮らしの高齢者の方へヤクルトをお届けし安否確認を行っている。訪問時危険な状態の時は、市へ連携を取っている。しかし地域の中で一人暮らしの高齢者で安否確認が必要だろうと思われる方も利用出来ていない状態である。又現在、月、水、金、(週3回)では、孤独や危機不安等把握しきれていない状況である。</p>				
目的 (何のために)	ひとり暮らしの高齢者が地域と関わる事によって孤独や危機からのSOSを見逃さないようネットワークづくりをしていく。				
対象 (誰・何を対象に)	ひとり暮らしの高齢者を対象とする。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛の定期便(市からの委託事業) ヤクルトをお届けし安否確認をおこなっている。 月、水、→(ヤクルト井野センター) 金 →(ホームケアふじしろ) ・民生委員さん、ボランティアさん、ヤクルト井野センターからひとり暮らしの高齢者の情報を得る。 ・高齢者に関わる事件、事故等又高齢者の孤独やSOSを見逃さないようにする。 ・月、水、金だけでは不安なので他の曜日にも情報収集出来るようボランティアセンター、民生委員さんと連携をとり見守りネットワークづくりに努める。 				
平成26年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんの集まりで愛の定期便(ひとり暮らしの方)をお知らせした。 ・愛の定期便訪問中(ヤクルト井野センター)亡くなっており高齢福祉課へ連絡した。 ・愛の定期便訪問中(ホームケアふじしろ)食事、水分が取れず危険な状態だったので高齢福祉課に連絡した。 ・今年度2回高齢福祉課へつなげた。 				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんの集まりで愛の定期便をお知らせしたことにより独居で不安を持っている方が2名対象となり月、水、金、訪問する事になり少しは安心して生活が出来るようになった。 ・体調が悪く身動きができない状態の高齢者を発見し救急搬送できた。 	
	課題				
	愛の定期便は、月、水、金、訪問なのでそれ以外の日が不安である。 ボランティアさん専門職、専門機関との連携がとれていない。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	愛の定期便月、水、金、以外にも見守りが出来るようにしていく。 ボランティアさん、専門職、専門機関との話し合いの場がもてるようにしていく。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	民生委員さん、ヤクルト井野センター、ケアマネジャー、ボランティアセンターと連携をとり 孤独や危機からのSOSを見逃さないよう見守りネットワークづくりに努める。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年5月 ～ 27年8月	ボランティアさん（いきいきサロンなど）専門職、専門機関との話し合いの場がもてるようにしていく。		
27年9月 ～ 27年12月	ボランティアさん、専門職、専門機関との連携をとり一人暮らしの高齢者の孤独やSOSを見逃さないよう情報収集し月、水、金、以外の日も安否確認が出来るようにしていく。				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・愛の定期便を知らない人がたくさんいて、お年寄りの方でも近所とあまり関わりたくない方もいる。もっと多くの方が利用出来て、市の方にはいろんなサービスがある事をもっと知ってもらう方法はないか。 ・愛の定期便、ヤクルトの配布がなかなか周知されていないということだが、見守りといっても拒絶されるお宅があって、そういった人達と関わりたいが、もう一步踏み込めないということがある中で、人との関わりの苦手な方のプログラムとして、人を介さない機械警備で安否確認をする方法として、民間の警備会社があるということも知っておいてよいかと思う。 					

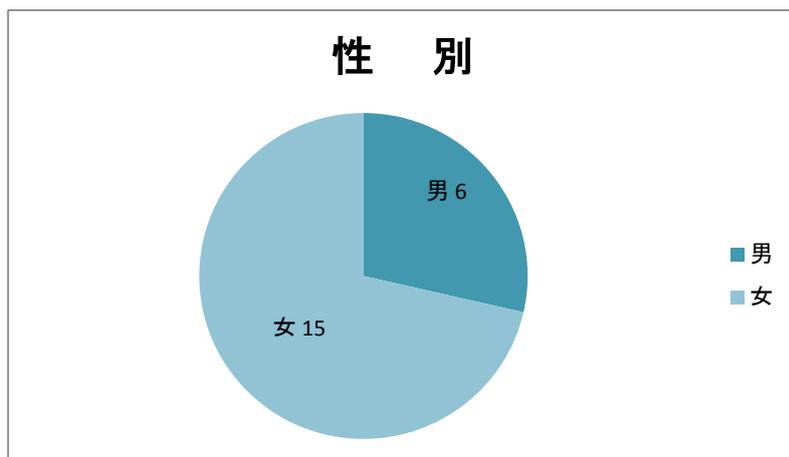
老人福祉センターさくら荘『シニアからの英語 書いて歌って』講座 アンケート集計結果

アンケート調査日
回答者数

H26.12.26
21名

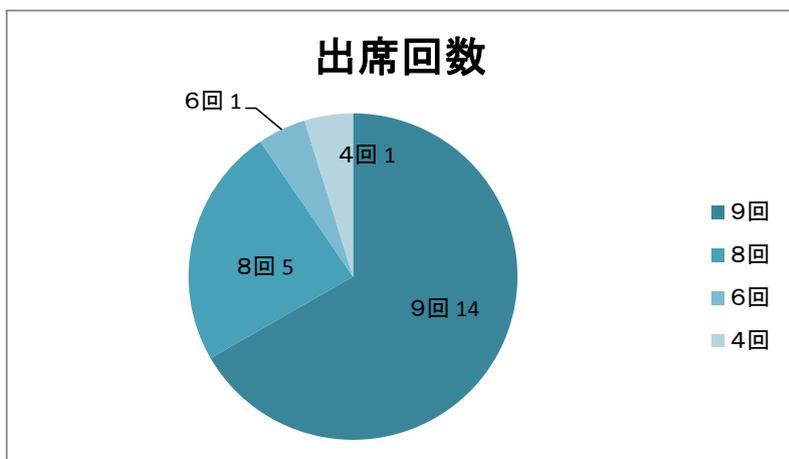
1. 性別を教えてください。

男	6
女	15



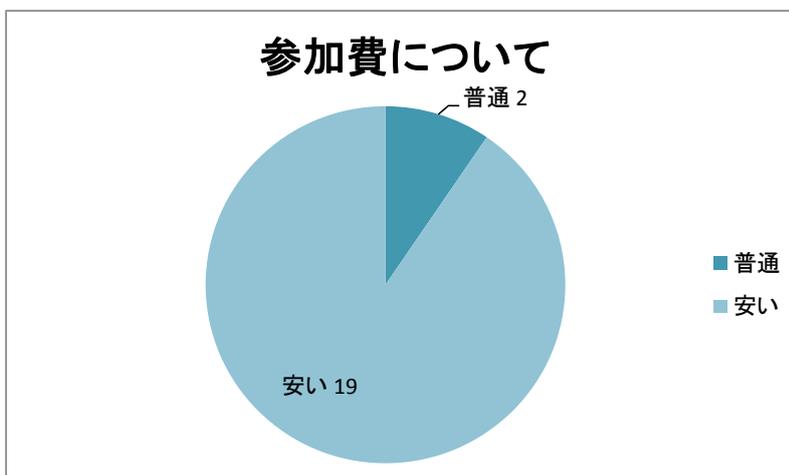
2. 今までシニアの英語講座に何回出席されましたか？

9回	14
8回	5
6回	1
4回	1



3. 今回のシニアの英語講座の参加費についてお伺いします。

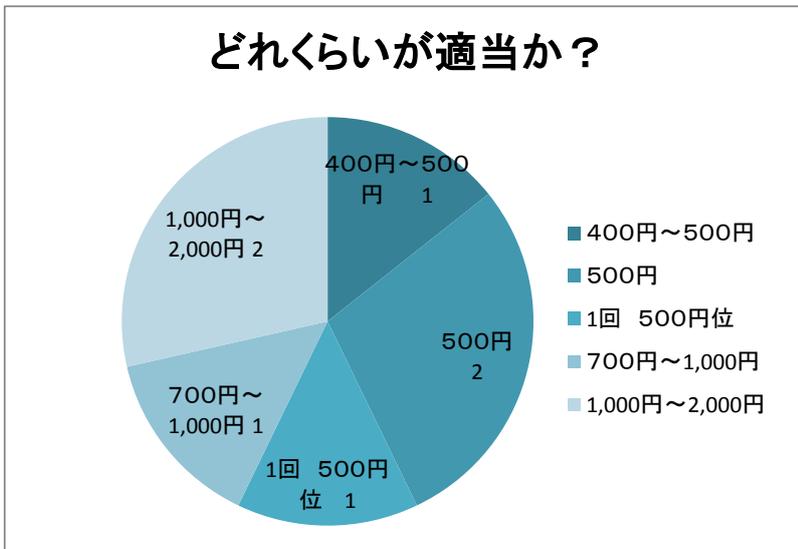
普通	2
安い	19



4. 3. で ① ③ に○を付けた方にお伺いします。

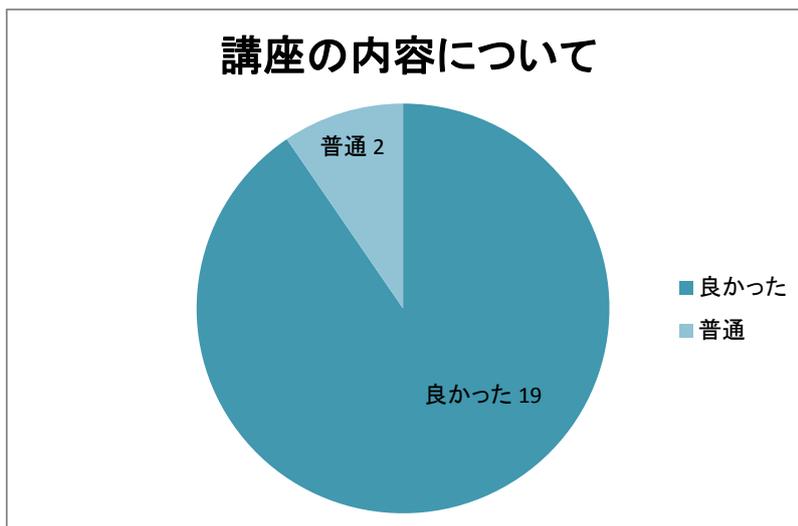
どれくらいが適当だと思いますか？

400円～500円	1
500円	2
1回 500円位	1
700円～1,000円	1
1,000円～2,000円	2



5. 今でシニアの英語講座を受講して内容はいかがでしたか？

良かった	19
普通	2



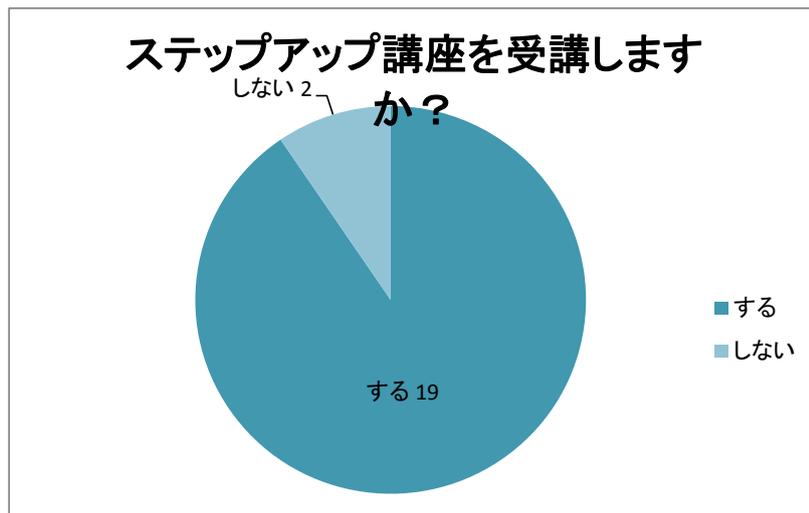
6. 5. で ① に付けた方にお伺いします。

どんなところが良かったですか？

- ・楽しかった 4
- ・忘れてしまった基本を教えていただいたところ(発音) 3
- ・先生の指導がわかりやすい、優しい 6
- ・いろいろなことを思い出せてもらったり新発見もあった 1
- ・講師の経験から内容が面白い 2
- ・最近、身近な会話文が出てきたのでよかった 1

8. 来年度、ステップアップをしたシニアの英語講座を予定しておりますが、受講を希望されますか？(年12回)

する	19
しない	2



9. 8で ① に○を付けた方にお伺いします。

どうして受講しようと思いましたか？

- ・少しでも英語を話せるようになりたい 6
- ・楽しいから 5
- ・英語が好きだから 1
- ・復習によるボケ防止 1
- ・ステップアップしたい 1
- ・生活の中での刺激になっている 1
- ・英語に興味を持ち、続ける機会にしたい 1
- ・少しでも東京オリンピックまでに英語を話せるように外国の方を手助けした 1
- ・もう一度ご指導していただきたい 1

10. 8で ② に○を付けた方にお伺いします。

どうして受講しないと思いましたか？

- ・ついていけそうにない 1
- ・他のこともあり、仕事もあり、勉強時間がない 1

11. シニアの英語 講座に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・母の介護でなかなか時間がなく月1回英語には参加出来るので少し話せる様になればうれしいです。 1
- ・先生がとても良い。 1
- ・素晴らしい講座で良かったです、ありがとうございました。楽しい講座でした。 2
- ・話せるようになりたい。 2
- ・回数が少ないのは良いのですが、残らないのが悲しいです。 1
- ・単語の意味を最初に教えてもらいたい。 1
- ・先生の英会話をもっと聞きたいです。たとえば、先生の恋愛、退職までの仕事など英語でお話してほしい。聞く方はわからないけど会話の雰囲気を感じたい。 1
- ・高校時代以来の英語のレッスンと言うことで、他の皆さんについていくのがやっとです。なかなか覚えられずに悩んでいます。 1
- ・外国人の接触の機会があればと思います。 1
- ・英語はなかなか理解できないのですが、聞いているだけで楽しくなります。 1
- ・シニア時代の英語に対する企画、良いと思います。ありがとうございます。 1
- ・Good ! 1
- ・良かった。これからも勉強したいです。どうぞよろしく願いいたします。 1
- ・実践的でわかりやすかった。 1
- ・時間に余裕が出来れば、また、参加したい。 1

さくら荘『ウォーキングで心身を癒そう』 アンケート集計結果

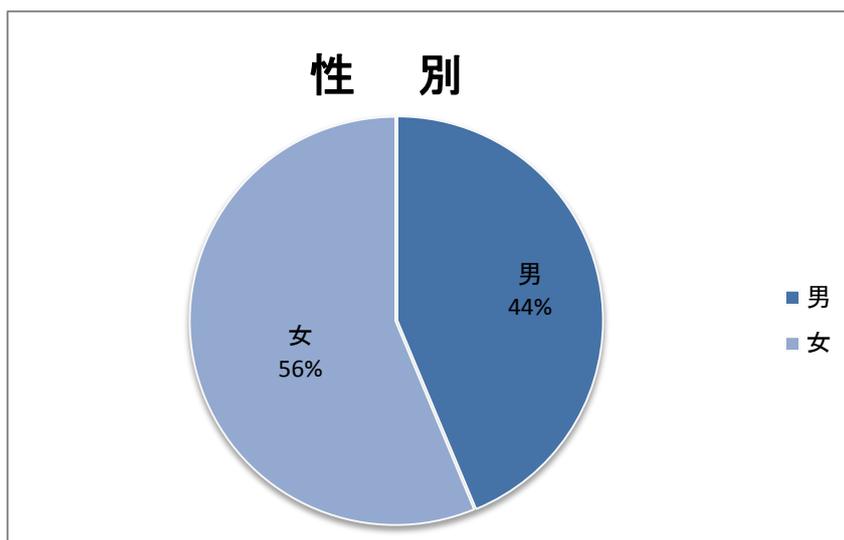
～相野谷川上流沿いの郷土史を散策しながらポックリさん参り～

開催日：平成26年10月18日(土)

参加者数 34名
回答者数 32名
回収率 94%

1. 性別を教えてください。

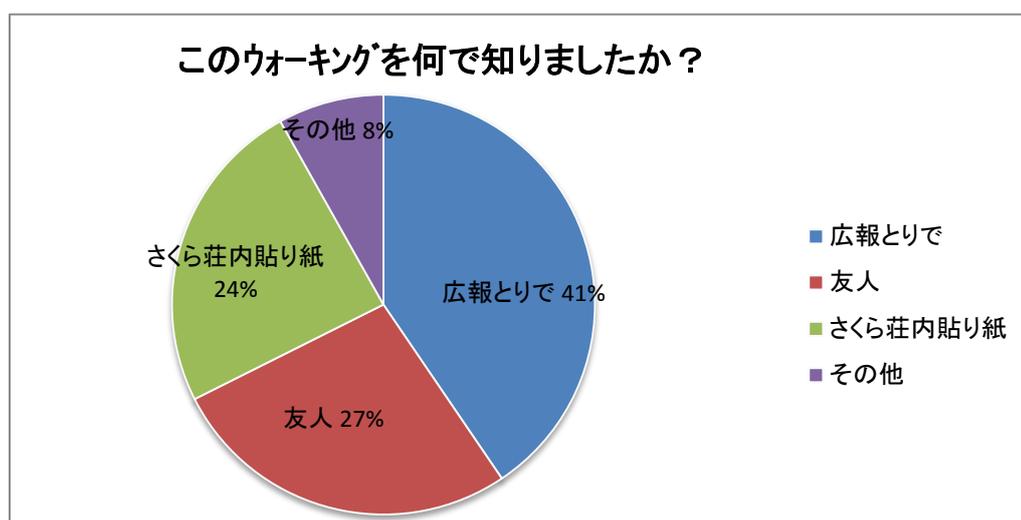
男	14
女	18



2. このウォーキングを何で知りましたか？

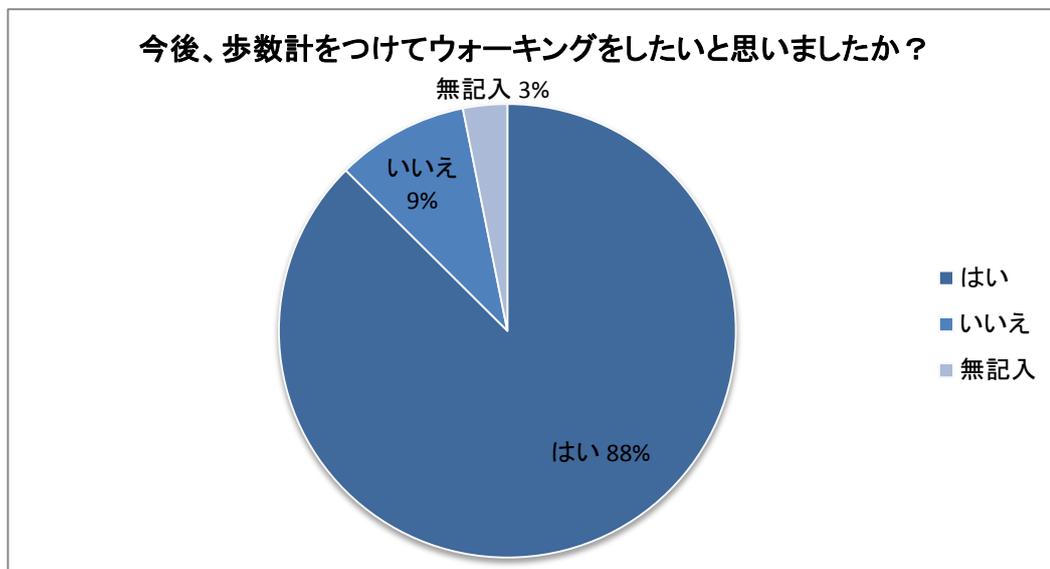
広報とりで	15
友人	10
さくら荘内貼り紙	9
その他	3

※複数回答あり



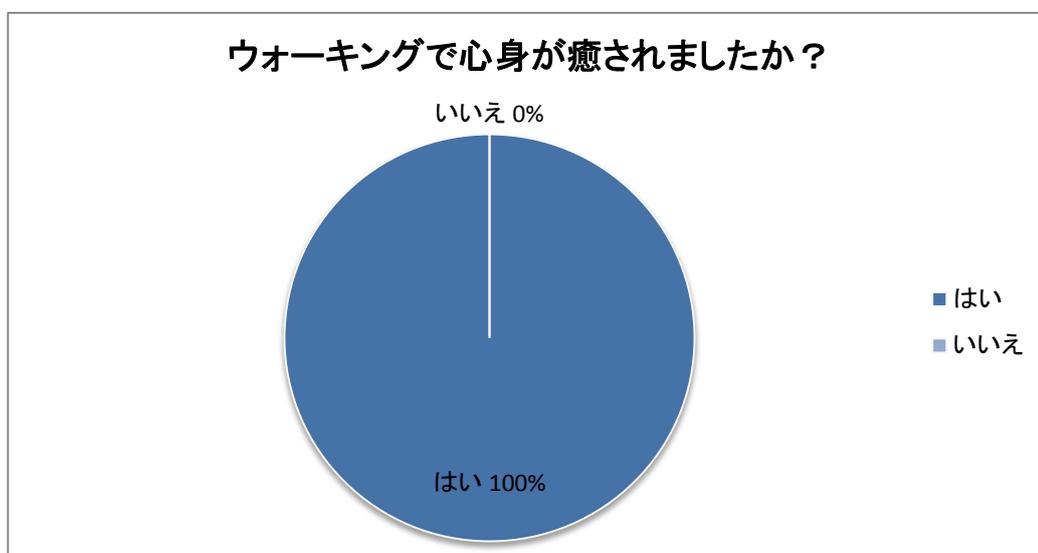
3. ウォーキングで歩数計をつけましたが、今後もつけてウォーキングをしたいと思えますか

はい	28
いいえ	3
無記入	1



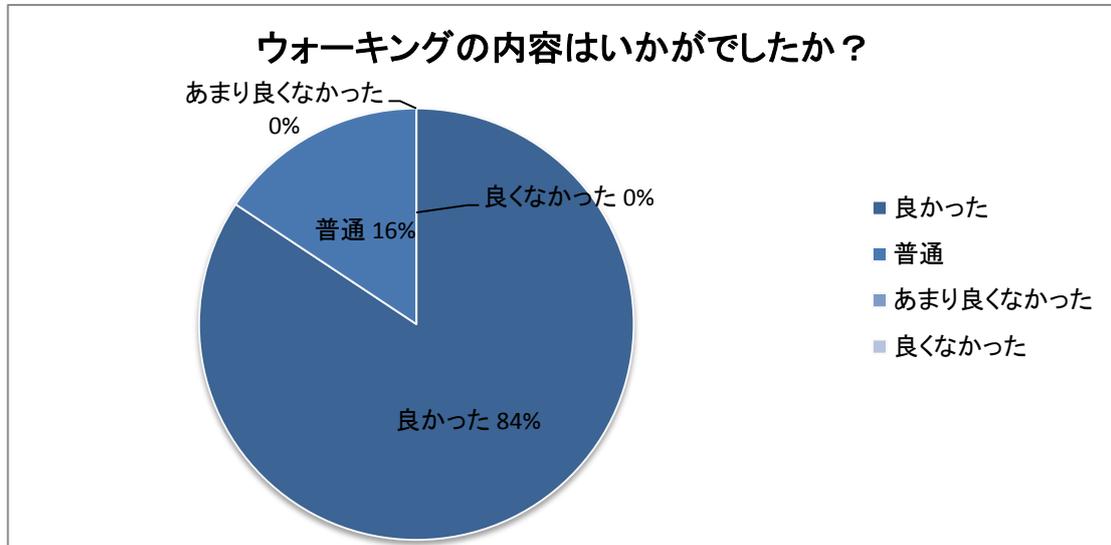
4. ウォーキングで心身が癒されましたか？

はい	32
いいえ	0



5. ウォーキングの内容はいかがでしたか？

良かった	27
普通	5
あまり良くなかった	0
良くなかった	0



6. 5. で①に○を付けた方にお伺いいたします。

どんなところが良かったですか？

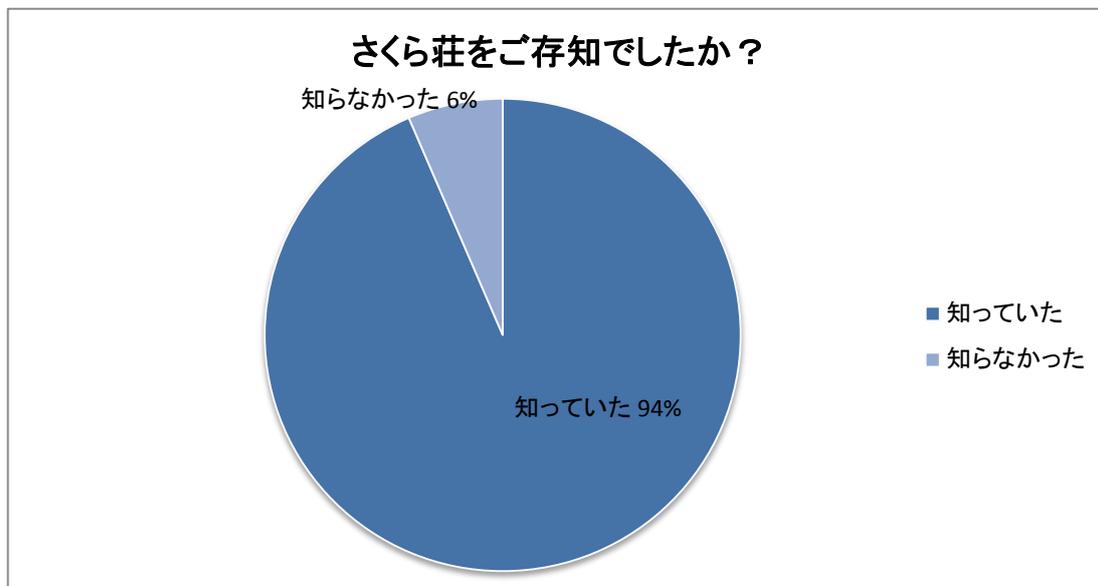
- ・旧道を巡りながら歩くと新鮮です。
- ・知らない道路、昔の道？良かった。
- ・要所要所の説明がわかりやすかった。 5
- ・取手市内に何十年も住んでいても知らない所ばかりでした 7
- ・すべて
- ・各所説明が有り、そんな速い速度でなかったから
- ・各立ち寄りヶ所のすべて
- ・説明を聞きながら、長年の道を知ること、今に通じているんだと!!
- ・旧名所が初めて知ったこと。
- ・普段歩いたことのなかった道を歩いた。
- ・取手について知識が豊富になった。
- ・ゆっくり歩いた。
- ・初めての所が多くて良かった。

7. 5. で③ ④に○を付けた方にお伺いいたします。

回答がない為、省略します。

8. さくら荘をご存知でしたか？

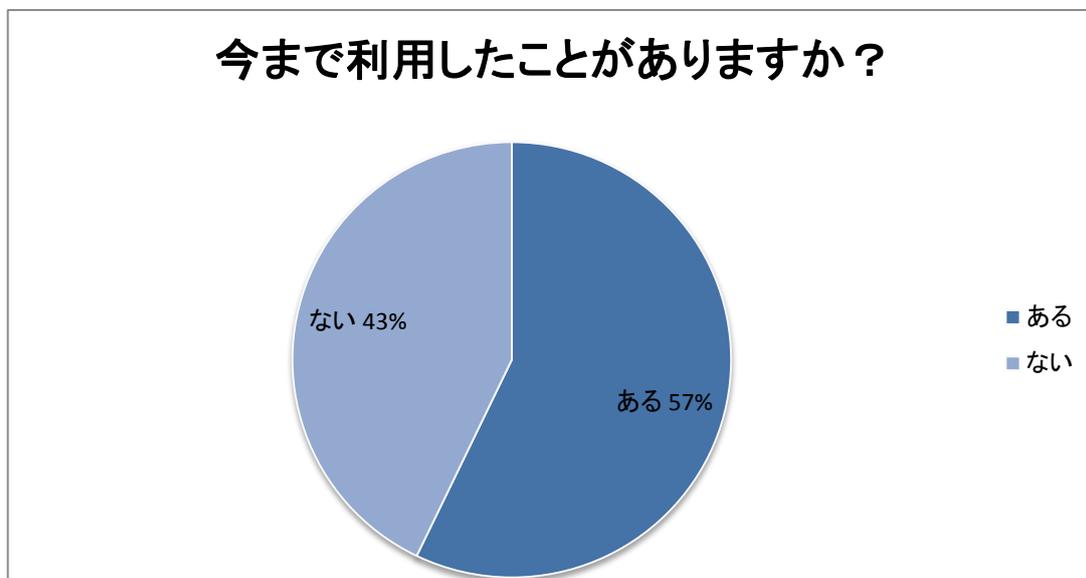
知っていた	29
知らなかった	2



9. 8. で①に○を付けた方にお伺いいたします。

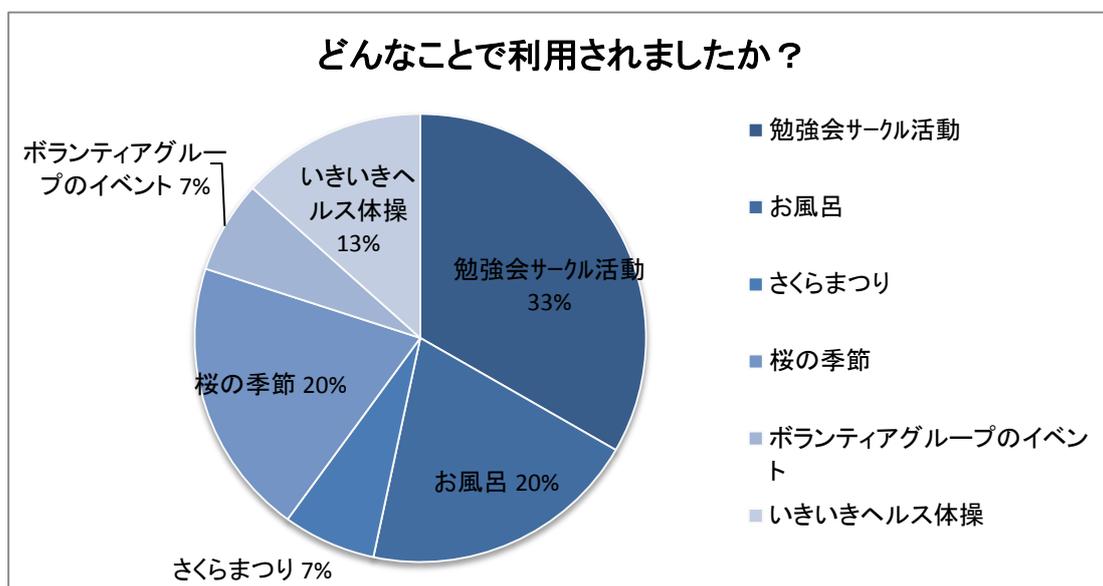
今まで利用したことはありますか？

ある	16
ない	12



どんなことで利用されましたか？

勉強会サークル活動	5
お風呂	3
さくらまつり	1
桜の季節	3
ボランティアグループのイベント	1
いきいきヘルス体操	2

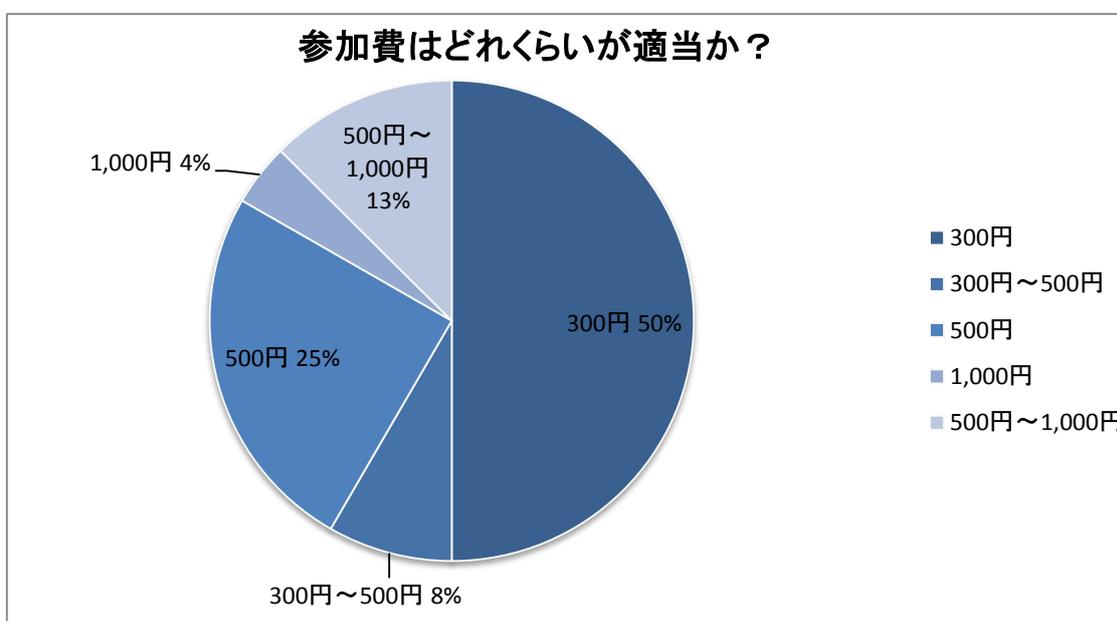


10. 今後やってほしいと思う講座があれば教えてください。

- ・名所、旧跡を巡るウォーキング等
- ・今日のようなこと
- ・ウォーキングは良いと思います。

11. 参加費について伺います。参加費を払うとしたらどれくらいが適当だと思われますか？

300円	12
300円～500円	2
500円	6
1,000円	1
500円～1,000円	3



12. ウォーキングに参加されたご感想、さくら荘に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・楽しく秋の休日を満喫させていただきました。
- ・初めて参加させていただきましたが、歩きが遅かったので少し疲れたかな
- ・お天気も良く今まで通った事のない道路等を通りいろいろなことが勉強できてよかったです。ありがとうございました。
- ・家族の者がそば打ちで等で大変お世話になりありがとうございます。
- ・初めて参加、とてもよかったです。
- ・仲間と話しながらのウォーキング楽しかったです。
- ・良かった。
- ・今回初めて参加できたが、大変良かった。機会があれば毎回参加したいと、思います。引率の方々にお礼申し上げます。
- ・いつも快適に使わせていただいております。
- ・年とともに足が弱っていくので、ウォーキングをして体にあった具合で続けたいと思います
- ・天候に恵まれ良かったです。説明も声がしっかり聞こえました。
- ・久しぶりに長距離歩いてリフレッシュした。知らなかった。取手の歴史をかい間見られてよ
- ・大変興味深かった。説明も良かった。
- ・お天気に恵まれて、ウォーキング日和で良かったです。

百人一首大会アンケート集計結果

開催日 平成26年10月30日(木)

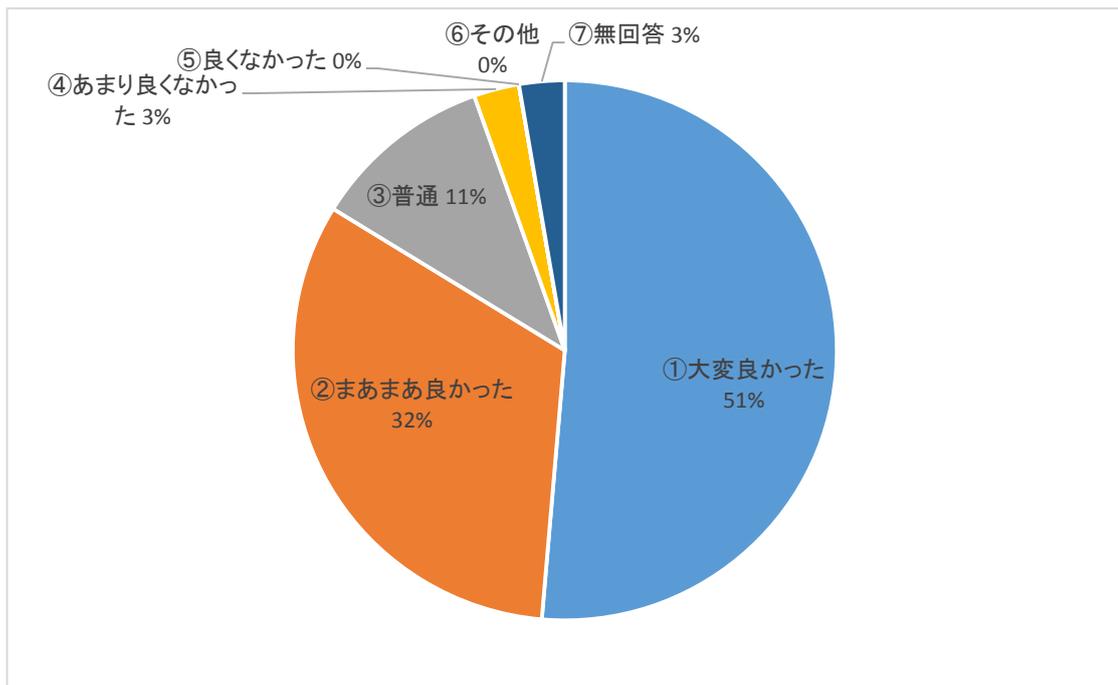
参加者 49名

回答者数 37名

回収率 76%

1. 今回のあけぼの百人一首大会について(○を一つつけて下さい)

①大変良かった	19
②まあまあ良かった	12
③普通	4
④あまり良くなかった	1
⑤良くなかった	0
⑥その他	0
⑦無回答	1



2. ①もしくは②とお答えの方にお聞きします。どのような点が良かったですか？

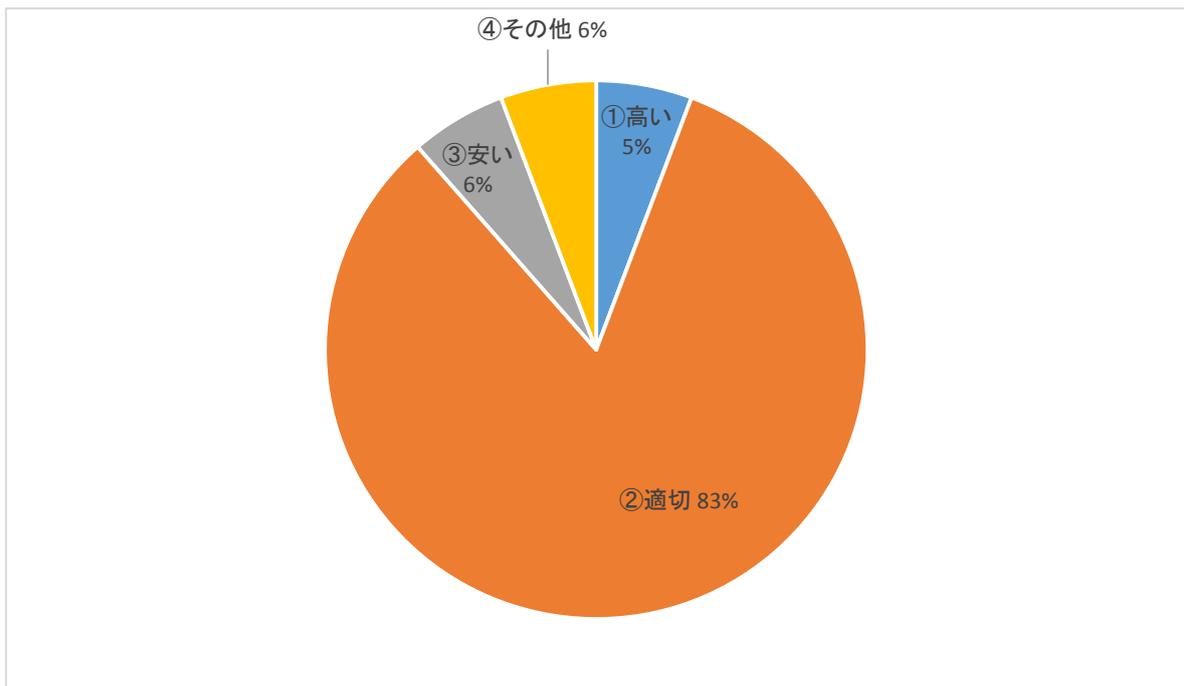
- ・初めて会う方たちともなごやかに対戦が出来た。後半もり上がって楽しかった。(3人)
- ・和気あいあいながら真剣にゲームを楽しんでいました。(5人)
- ・脳の活性化に良いと思いました。(3人)
- ・グループ替えした所が良かった。(2人)
- ・認知症予防・身近な人間関係作りに良いと思った。
- ・久しぶりにやって皆さんと一緒に笑いながら楽しめた。(3人)
- ・初めての経験で楽しかったですが、騒々しいと言葉が聞き取りにくいのが気になった。
- ・子供達と楽しく遊んでたところがよみがえった。
- ・おもしろかった(2人)
- ・なつかしい歌に出会えて、面白かった。
- ・これから勉強したい。
- ・読み手がマイクを使ったことが良かった。
- ・昔の事を思い出し、大変楽しくすごしました(2人)

3. ④もしくは⑤とお答えの方にお聞きします。どのような点が良くなかったですか？

- ・同じグループになった人がいた。
- ・上の句を読み終わらないうちに取るようにした方が良い。
- ・グループ分けをされているようですが、配られた領収書にもマジックで色分けされていれば一目瞭然でわかりやすいと思いました。
- ・百人一首の意味も書いて下さればうれしいです。

4. 今回の参加費は適切でしたか？(○を一つだけつけて下さい)

①高い	2
②適切	29
③安い	2
④その他	2
他と比較できないので分からない	
参加費不要	

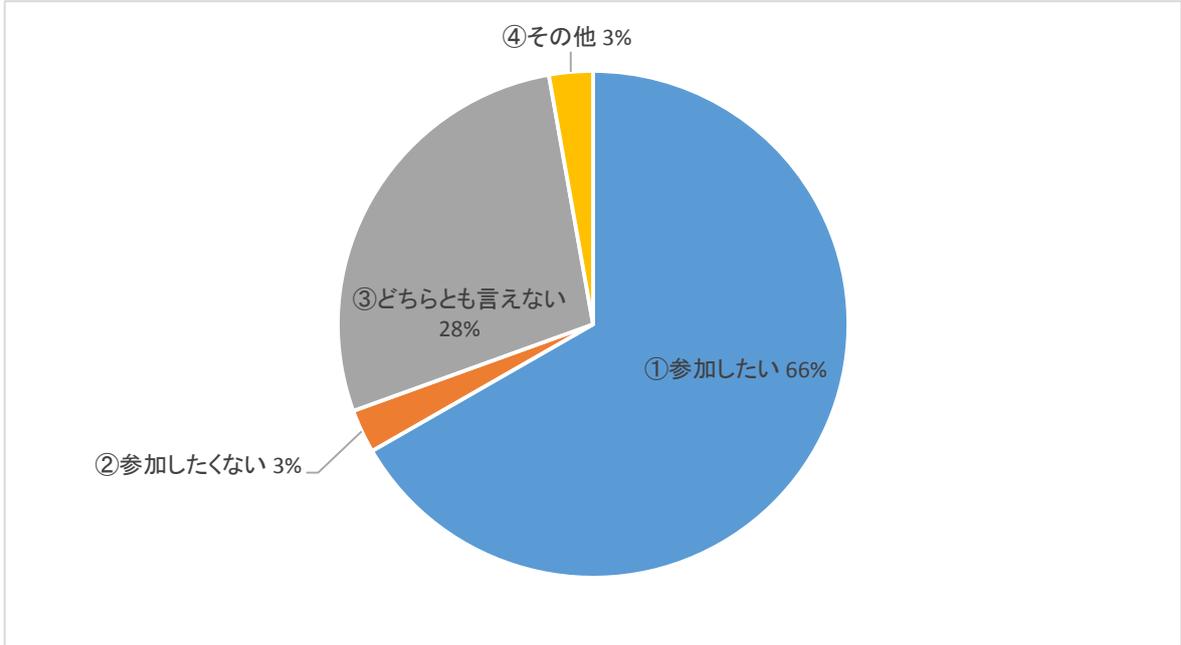


5. 改善してほしい点があれば、ご記入下さい。

- ・同じ色が2回もある組み合わせにならないようにしてほしい。(3人)
- ・受け付けはもう少しスムーズに流れればよいと思う。
- ・テーブルで出来れば良かった。
- ・一首、二首でも解説を希望します。(3人)
- ・読み方に工夫はどうでしょうか(2人)
- ・足の悪い人は座っているのがつらい
- ・読み手が札を読み始めるときは手を膝に置くなどのルールをきちんとすることか必要では。(2人)
- ・少しランク分けしたほうが初心者も、もっと楽しんで取れると思います。(2人)
- ・「シャッフル」という語は如何なものか？日本語を大切にしたい。

6. 次回あけぼの百人一首大会があれば

①参加したい	24
②参加したくない	1
③どちらとも言えない	10
④その他	1



7. これからあけぼので行ってほしい講座等があればご記入下さい。

- ・取手市も高齢化・少子化。どう1人1人が町づくりを考えるべきか。
- ・すごろく
- ・絵手紙
- ・インテリア
- ・習字

8. その他、あけぼのに対するご意見あればご記入下さい。

- ・あけぼのはいつも楽しいです。芸能大会も売店も良いです。
- ・行事企画進行の係りの諸氏に感謝です。ありがとう。
- ・目が悪くなっている事を配慮して欲しい。